



Middle Years Programme
Programme d'éducation intermédiaire
Programa de los Años Intermedios

中等教育プログラム (MYP)

「個人と社会」指導の手引き

2014年9月／2015年1月から適用



International Baccalaureate®
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional



Middle Years Programme
Programme d'éducation intermédiaire
Programa de los Años Intermedios

中等教育プログラム (MYP)

「個人と社会」指導の手引き

2014年9月／2015年1月から適用



International Baccalaureate®
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

中等教育プログラム

「個人と社会」指導の手引き

2014年5月発行、2014年9月、2017年9月改訂の英文原本 *Individuals and societies guide* の日本語版
2016年7月発行、2018年4月改定

本資料の翻訳・刊行にあたり、
文部科学省より多大なご支援をいただいたことに感謝いたします。

注：本資料に記載されている内容は、英文原本の発行時の情報に基づいています。アップデートされた用語がある場合には、ワークショップなどでは最新の用語にそれぞれ読み替えてご利用ください。

非営利教育財団 国際バカロレア機構
(International Baccalaureate Organization)
15 Route des Morillons, 1218 Le Grand-Saconnex, Geneva, Switzerland

発行所
International Baccalaureate Organization (UK) Ltd
Peterson House, Malthouse Avenue, Cardiff Gate
Cardiff, Wales CF23 8GL, United Kingdom

ウェブサイト：www.ibo.org

© International Baccalaureate Organization 2016

国際バカロレア機構（以下、「IB」という。）は、より良い、より平和な世界の実現を目指して、チャレンジに満ちた4つの質の高い教育プログラムを世界中の学校に提供しています。本資料は、そうしたプログラムを支援することを目的に作成されました。

IBは、資料の中で利用する多様な情報源について、情報の正確さと信憑性を確認します。ウィキペディアのようなコミュニティーベースの知識源を使用する際には、特に留意します。IBは知的財産の原則を尊重し、利用する著作物すべてについて刊行前に著作権者を特定し、許諾を得るよう常に努力します。IBは、本資料で利用した著作物に対して許諾をいただいたことに感謝するとともに、誤記および遺漏がありました場合には、可能な限り早急に訂正いたします。

本資料に関するすべての権利はIBに帰属します。法令またはIB内部規則もしくは方針に明記されていない限り、IBの事前承諾書なしに、本書のいかなる部分も、形式と手段を問わず、複製、検索システムへの保存、送信を禁じます。詳しくはwww.ibo.org/copyrightをご覧ください。

IBの商品と刊行物は、IBストア (<http://store.ibo.org>) でお求めください。ご注文については、販売・マーケティング部にお問い合わせください。

電子メール：sales@ibo.org

International Baccalaureate、Baccalauréat International および Bachillerato Internacional は、
International Baccalaureate Organization の登録商標です。

IBの使命

IB mission statement

国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。



IBの学習者像

すべてのIBプログラムは、国際的な視野をもつ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育てます。

IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。

考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

信念をもつ人

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。

思いやりのある人

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

挑戦する人

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化と機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

この「IBの学習者像」は、IBワールドスクール（IB認定校）が価値を置く人間性を10の人物像として表しています。こうした人物像は、個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティの責任ある一員となることに資すると私たちは信じています。

目次

はじめに	1
本ガイドの目的	1
MYPにおける「個人と社会」	3
プログラムモデル	3
「個人と社会」の本質	5
IBの一貫教育の中の「個人と社会」	6
ねらい	8
目標	9
学習の進行の計画	11
学際的な学習	13
MYPプロジェクト	14
指導計画と授業方法	15
要件	15
「個人と社会」のカリキュラム計画	16
探究による「指導」と「学習」	17
科目別のガイダンス	26
評価計画	29
目標と評価基準の整合性	29
評価基準の概要	30
「個人と社会」の評価基準：第1年次	31
「個人と社会」の評価基準：第3年次	35
「個人と社会」の評価基準：第5年次	39
e アセスメント	43
付録	44
「個人と社会」の「関連概念」	44
「個人と社会」の用語解説	56
MYPの「個人と社会」の指示用語	57
参考図書	59

本ガイドの目的

本ガイドは、学校年度の開始時期に合わせて、2014年9月または2015年1月からの運用となります。

本ガイドは、中等教育プログラム（MYP）で実施される「個人と社会」における「指導」と「学習」の枠組みを提供します。必ずIB資料『MYP：原則から実践へ』も併せて読み、活用してください。IB資料『MYP：原則から実践へ』には次の内容が含まれています。

- ・プログラムの概要
- ・MYPの単元指導案（すべての教科に関連するカリキュラムを開発するためのガイドンスつき）
- ・「学習のアプローチ」（*approaches to learning*）の詳細
- ・生徒のアクセスと「インクルーシブ」な教育（学習支援の必要な生徒のための宿泊設備を含む）をサポートするためのアドバイス
- ・学問的誠実性についての方針

MYPの資料では、要件はこのように枠で囲んで表示されます。

その他のリソース

教師用参考資料（TSM: teacher support material）が、プログラム・リソース・センター（PRC）に用意されています（<http://resources.ibo.org>）。「個人と社会」のTSMは、指導計画、授業方法、評価計画の開発に役立つ内容を含み、教科の概観、評価課題、マークスキーム（採点基準）、さらに教師によるコメント付きの生徒の成果物を含む、優れた実践例を紹介しています。

外部評価のプロセスを選択すると、IBにおける「個人と社会」の**MYPでの成績**を得ることができ、これらの成績によって、IBの**MYP修了証**の取得が可能になります。詳細は、IBから毎年刊行されるIB資料（英語版）『*Middle Years Programme assessment procedures*（MYPにおける評価の手順）』に記載されています。

また、MYPを支援するさまざまな資料をIBストア（<http://store.ibo.org>）で購入できます。

謝辞

I Bと共に中等教育プログラム（MYP）の発展に取り組む、I Bワールドスクール（I B認定校）と世界中の教育者コミュニティーの多大なる貢献に、深く感謝いたします。

プログラムモデル

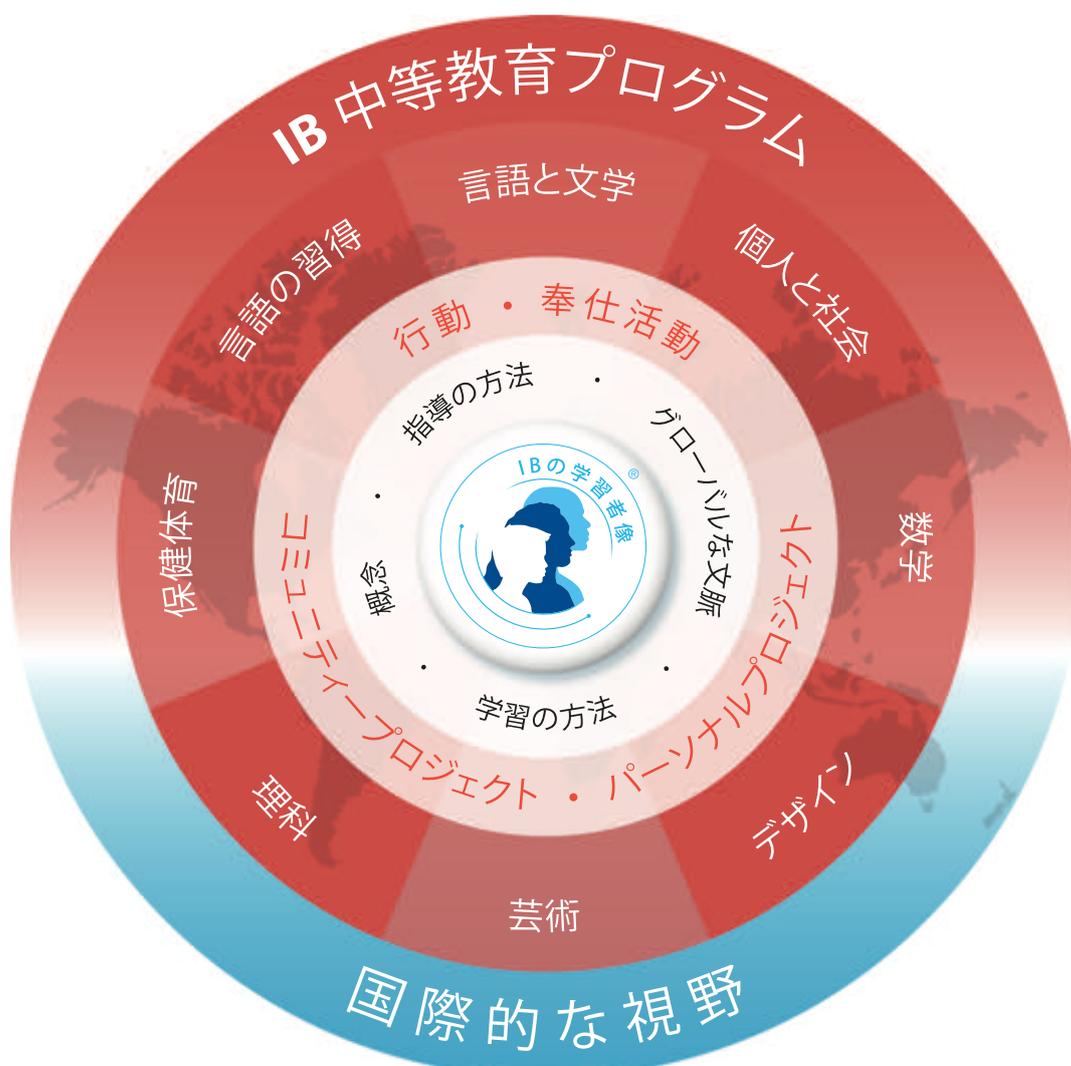


図1

中等教育プログラム（MYP）のモデル

MYPは11歳から16歳までの生徒を対象としたプログラムで、生徒が創造的、批判的、^{クリティカル}内省的思考を身につけることを促す学習の枠組みを提供します。MYPでは知的な課題を重視し、各科目の学習内容と実際の社会を結びつけるよう生徒に働きかけます。これにより、コミュニケーションや多様な文化の理解、グローバルな関わりのためのスキル、つまりグローバルリーダーとなる若者に欠かせない要素を育成します。

MY Pには、ほとんどの国や地域で定められたカリキュラムの要求に十分に対応できる柔軟性があります。IB初等教育プログラム（PYP）で身につけた知識、スキル、姿勢を活かし、IBディプロマプログラム（DP）やキャリア関連プログラム（CP）の学問的課題に対応できるよう生徒を導きます。

MY Pでは、以下のような取り組みを行います。

- ・ 生徒の知的、社会的、感情的、身体的な**発達**^{ホリスティック}に、全人的に取り組む。
- ・ 生徒が複雑な問題に対応し、未来に向けた責任ある行動をとるために必要な、**知識、姿勢、スキル**を育む機会を与える。
- ・ **8つの教科**を通して、幅広く深い理解が得られることを保証する。
- ・ 生徒が自国の文化と他国の文化を理解できるよう、**2つ以上の言語**の学習を義務づける。
- ・ 生徒に、**コミュニティーの奉仕活動**に参加できる力を身につけさせる。
- ・ **進学や就職、生涯にわたる学習**に取り組めるよう生徒を導く。

「個人と社会」の本質

MY Pの「個人と社会」では、自分を取り巻く世界を尊重しながら理解し、歴史、現代、地理、政治、社会、経済、宗教、技術、文化など、個人と社会と環境に影響を及ぼし得る要因を探究するうえで必要とされるスキルを習得するよう、学習者を促していきます。また、生徒と教師の両方を含む学習者に対して、ローカルな文脈とグローバルな文脈を考察するよう働きかけます。

MY Pの「個人と社会」には、これまで一般に「人文」という区分で学習されてきた学習分野（歴史や哲学など）に加え、社会科学とされる学習分野（経済、経営、地理、社会、政治など）が含まれています。

この教科では、生徒の個人生活に関連性が高く、エキサイティングで刺激の多いトピックや問題点を取り扱います。繊細な扱いを要する難しい個人的なトピックの多くは、敬意とオープンマインドを旨とする安全かつ責任ある学習環境の文脈の中で注意深く考察される必要があります。「個人と社会」を学習することにより、生徒は、人間の文化、態度、信念の多様性を批判的にとらえようとして、その重要性を認識できるようになります。情報や方法論には議論の余地があり、かつ賛否両論を招く可能性があることを生徒が認識し、不確定なことに対する受容能力を身につけるうえで、この教科のコースは重要です。

「個人と社会」に対するIBのアプローチは、探究と調査に重点を置いています。生徒は、社会の学習で使われるデータを収集して理解・分析し、仮説を検証し、徐々に複雑な情報や情報の原典の解釈方法を学んでいきます。実社会の事例、そして研究と分析に重点を置くことは、この教科にとって不可欠です。

「個人と社会」の学習は、生徒が個人としてのアイデンティティーとともに、地域のコミュニティとグローバルなコミュニティの責任あるメンバーとしてのアイデンティティーを発達させるのにも役立ちます。私たち人類に共通する人間性を探究することは本質的に興味深い営みです。この教科に含まれる学習分野は、さまざまなことが絡み合いながら急速に変化する今の時代にあって、引き続き進化していく「人間の物語」に対し生涯にわたって興味をもち続ける姿勢を生徒に芽生えさせる可能性を多分に秘めています。「個人と社会」の学習は、共感や国際的な視野を育むうえで欠かせません。これには、「自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得る」（IB資料『IBの使命』）という考え方が含まれます。

I Bの一貫教育の中の「個人と社会」

I Bの国際的な一貫教育は、3歳から19歳までの児童生徒を対象とした連続的な学習です。MY Pの「個人と社会」は、PYPや他の生徒主体の初等教育で児童生徒が学んだことや経験したこと、特に社会との関わりを土台として、その上に発展させていくことをねらいとしています。ただし、MY Pの履修に際して正式に要件とされる既習事項はありません。

MY Pの「個人と社会」は、特にDPの「個人と社会」に含まれるコースを学習するための準備となります。さらに、MY Pの生徒は、徹底した探究や調査に取り組むことを求められ、これがDPの内部評価の重要な基礎となります。

以下の図2は、「個人と社会」の学習がI Bの一貫教育を通してどのように進展していくかを示しています。

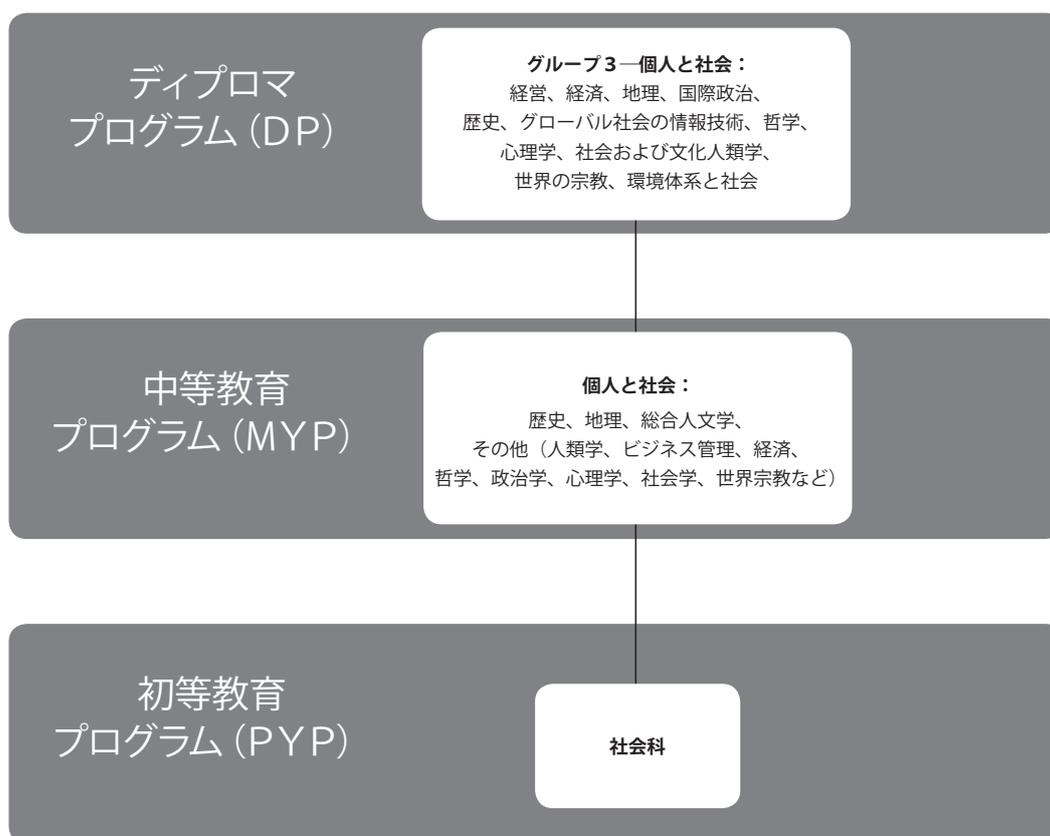


図2

「個人と社会」における、ディプロマプログラム学習に至るI Bの一貫教育の道筋

MY Pの「個人と社会」は、DPを有意義に履修できるようになるための全体的な能力の開発にも役立ちます。MY Pにおいて生徒は、認知的なスキルと手続き的なスキルの両方を習得し、またDPの「指導」と「学習」を支える概念に対して深い理解も発達させます。研究と調査のスキルは、「創造性・行動・奉仕」(CAS)や「課題論文」(EE)を含むDPのコア要件にも応用できます。MY Pは、DPの「知の理論」(TOK)で振り返りを行う際に核となる「知るための方法」を探究する機会も多く提供します。「個人と社会」のコースでは、実験と観察、立論と論証、原典の使用などを実践しながら、人間の存在と行動についての「知識に関する主張」を提案するのに活用できるデータも取り扱っていきます。この教科でMY Pの生徒は、「知識に関する主張」の探究を開始し、有効性、信頼性、信ぴょう性、確実性、および個人のものの方の見方や文化的なものの方の見方などを評価していきます。

人文・社会科学が重視する批判的かつ創造的な思考スキルは、生徒が興味を有するさまざまな分野やキャリアにおいて応用可能なスキルでもあります。「個人と社会」の学習を通じて習得する知識、スキル、態度は、学習を進めるうえで有意義な基礎となり、また学術研究機関、非政府組織、行政機関、非営利団体、民間企業などで働くための準備にも役立つでしょう。

MY Pの「個人と社会」の学習分野に関連づけられる重要なキャリア分野には、以下のようなものがあります。

- ・ 経済、金融、財務分析
- ・ ビジネス、経営、管理
- ・ 教育、研修
- ・ 政府、行政
- ・ 法律、公安
- ・ 厚生、福祉
- ・ マーケティング、セールス、サービス
- ・ 国際開発
- ・ 旅行、観光
- ・ 文化事業
- ・ 都市開発、地域開発
- ・ 持続可能性、保全、環境管理

ねらい

すべてのMYP科目のねらいでは、教師が指導すべきこと、生徒が経験し学習すべきことを提示しています。また、これらのねらいには、学習体験によって生徒がどう変わり得るかが示されています。

MYPの「個人と社会」のねらいは、生徒に以下のことを促して、習得させることです。

- ・ 人間と環境に見られる共通点や多様性を認識すること
- ・ 個人、社会、環境の相互作用や相互依存性を理解すること
- ・ 環境の体系と人間の体系がどのように作用し進化していくかを理解すること
- ・ 人間のコミュニティと自然環境の健やかさについて、問題点を特定し啓発すること
- ・ 地域およびグローバルなコミュニティの責任ある市民として行動すること
- ・ 探究のスキルを養い、個人と社会とそれらが生きる環境との間の関係性を概念的に理解すること

目標

どのMYP教科の目標の記述においても、科目での学習について特定の目標が設定されています。これらの目標では、科目の学習の結果として、生徒が達成できることを定義します。

MYPの「個人と社会」の目標は、知識についての事実および概念に基づく側面、手続き上の側面、そしてメタ認知的な側面を網羅しています。

学校は、第1、第3、第5年次のプログラムについては、この指導の手引きに記載されている目標を使用**しなければなりません**。

各目標はいくつかの**ストランド**（目標を構成する要素）から構成されています。ストランドとは、期待される学習の1つの側面または指標です。

教科では、MYPの**各年次で少なくとも2回**、4つの**すべての**目標の、ストランド**すべて**に取り組ま**なければなりません**。

これらの目標は、本資料の「評価計画」のセクションに記載されている評価規準に直接結びつけられています。

A 知識と理解

生徒は、個人と社会についての事実的な知識と概念的な知識を習得します。

「個人と社会」のねらいを達成するには、以下のことができなければなりません。

- i. 文脈に合った用語を使う。
- ii. 記述や説明、または事例を通して、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。

B 調査探究

生徒は、人文・社会科学の学習分野に関連する体系的な研究のスキルとプロセスを習得します。さらに、単独で、または他の人々と協力して調査するための効果的な戦略を習得します。

「個人と社会」のねらいを達成するには、以下のことができればなりません。

- i. 明確かつ的の絞られた研究課題を設定し、その関連性を正当化する。
リサーチ・クエスション
- ii. 研究課題を調査するための行動計画を策定し実践する。
- iii. 関連性の高い情報を収集し記録するための研究方法を活用する。
- iv. 調査のプロセスと結果を評価する。

C コミュニケーション

生徒は、さまざまな媒体とプレゼンテーション形式を使用して学習したことをまとめ、記録し、伝達するスキルを習得します。

「個人と社会」のねらいを達成するには、以下のことができればなりません。

- i. 受け手や目的にとって適切なスタイル（文体）を使用して、情報や考えを伝達する。
- ii. 特定の形式にふさわしい方法で、情報や考えを構成する。
- iii. 広く認知された表現技法に則って、情報源を記録する。

D 批判的思考

生徒は、批判的思考のスキルを使用して、個人と社会、および調査のプロセスについての理解を発達させ、応用することを習得します。
クリティカル・シンキング

「個人と社会」のねらいを達成するには、以下のことができればなりません。

- i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論について議論する。
- ii. 情報を統合して、有効な主張を行う。
- iii. 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から分析・評価し、その価値や限界を考察する。
- iv. さまざまなものの見方とそこに含まれる意味を解釈する。

学習の進行の計画

プログラムを通じて、生徒はカリキュラムに取り組み、徐々に理解の難易度を向上させていく必要があります。

第1年次 「個人と社会」のねらいの達成に、生徒は以下のことを習得している必要がある	第3年次 「個人と社会」のねらいの達成に、生徒は以下のことを習得している必要がある	第5年次 「個人と社会」のねらいの達成に、生徒は以下のことを習得している必要がある
目標A：知識と理解		
<ul style="list-style-type: none"> i. 文脈に合った語彙を使う。 ii. 記述や説明、または事例を使って、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> i. 文脈に合った一定範囲の用語を使う。 ii. 記述や説明、または事例を通して、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> i. 文脈に合った広範囲の用語を使う。 ii. 高度な記述や説明、または事例を通して、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。
目標B：調査探究		
<ul style="list-style-type: none"> i. 研究課題を選んだ理由を説明する。 ii. 研究課題を探究するための行動計画を実践する。 iii. 研究課題にとって関連性の高い情報を収集し記録する。 iv. 研究のプロセスと結果を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> i. 明確かつ的の絞られた研究課題を設定または選択し、その関連性を説明する。 ii. 研究課題を調査するための行動計画を策定し実践する。 iii. 関連性の高い情報を収集し記録するための方法を活用する。 iv. 指導を得て、研究のプロセスと結果を評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> i. 明確かつ的の絞られた研究課題を設定し、その関連性を正当化する。 ii. 研究課題を調査するための行動計画を策定し実践する。 iii. 適切で多様、かつ関連性の高い情報を収集し記録するための研究方法を活用する。 iv. 研究のプロセスと結果を評価する。

第1年次 「個人と社会」のねらいの達成に、生徒は以下のことを習得している必要がある	第3年次 「個人と社会」のねらいの達成に、生徒は以下のことを習得している必要がある	第5年次 「個人と社会」のねらいの達成に、生徒は以下のことを習得している必要がある
目標C：コミュニケーション		
<ul style="list-style-type: none"> i. 情報や考えを明確に伝達する。 ii. 課題のために情報や考えを効果的に整理する。 iii. 課題の指示に従った方法で、情報源を列挙する。 	<ul style="list-style-type: none"> i. 受け手と目的にとって適切な方法で、情報や考えを伝達する。 ii. 課題の指示に従って、情報や考えを構成する。 iii. 引用文献のリストを作成し、情報源に言及する。 	<ul style="list-style-type: none"> i. 受け手や目的にとって適切なスタイル（文体）を効果的に使用して、情報や考えを伝達する。 ii. 特定の形式にふさわしい方法で、情報や考えを構成する。 iii. 広く認知された表現技法に則って、情報源を記録する。
目的D：批判的思考		
<ul style="list-style-type: none"> i. 考え、出来事、視覚表現、議論の要点を特定する。 ii. 情報を使用して意見を正当化する。 iii. 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から特定し、分析する。 iv. さまざまな見解とそこに含まれる意味を特定する。 	<ul style="list-style-type: none"> i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論を分析する。 ii. 情報を要約して、有効かつ論拠のある主張を行う。 iii. 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から分析し、その価値や限界を認識する。 iv. さまざまなものの見方を認識し、そこに含まれる意味を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論について議論する。 ii. 情報を統合して、有効かつ論拠のある主張を行う。 iii. 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から分析・評価し、その価値や限界を考察する。 iv. さまざまなものの見方とそこに含まれる意味を解釈する。

プログラムが進むにつれて、評価されるスキル、技法、概念の範囲と、それらの応用方法の複雑さが増していかなければなりません。

学際的な学習

学際的な「指導」と「学習」は、個々の教科と学習分野に基づいていますが、以下のよう
な方法によって教科の理解が広がります。

- ・ **統合的な方法**—— 2つ以上の教科、学習分野、または確立された専門分野の概念、
方法、またはコミュニケーションの方法を統合し、新しいものの見方を構築する。
- ・ **目的のある方法**—— 学習分野を関連づけ、実社会の問題を解決したり、成果を生み
出したり、1つのアプローチでは思いもよらない方法で複雑な問題に取り組む。

学際的な「指導」と「学習」は、MYPの生徒の発達上のニーズに対応できる、つなが
りのあるカリキュラムを構築します。また、生徒を、さらなる学問的な教科ごとの、そし
て学際的な学習に備えさせ、あらゆるものの相互の関連性がますます強くなる世界での生
活に向けた準備をさせます。

MYPでは、概念と文脈を、教科と学習分野を横断する知識の、意味のある統合と転移の
出発点として使用します。IB資料(英語版)『*Fostering interdisciplinary teaching and learning
in the MYP* (MYPにおける学際的な「指導」と「学習」の促進)』(2014年刊行)には、学際的単
元を計画し記録するための詳細なプロセスを含む、詳しい情報が記載されています。

MYP実施校は、プログラムの各年次で、協働して計画された少なくとも1つの学際的単
元に生徒を取り組ませる責任があります。

MYPの「個人と社会」は、学際的な「指導」と「学習」の機会を数多く提供します。
この教科の学際的單元には、例えば以下のような探究があります。

- ・ 発見と革新の歴史的、地理的な文脈（「理科」と「デザイン」）
- ・ 芸術的表現の政治的、文化的、社会的な重要性（「芸術」）
- ・ 社会現象の統計分析と数学モデル（「数学」）

学際的な学習は、大小さまざまな学習の取り組みを通じて実現することができます。真
に学際的な学習にはしばしば、批判的に振り返り、詳細に協働設計することが求められま
す。しかし、教師と生徒は、自発的な学習経験や会話を通じて学際的なつながりを見つけ
ることもできます。

MYPのすべての教科担当教師は、学際的な「指導」と「学習」に向けて、意味のある継
続的な機会をつくり出す責任があります。

MYPプロジェクト

「MYPコミュニティープロジェクト」(第3年次または第4年次)と「MYPパーソナルプロジェクト」(第5年次)のねらいは、新しい洞察とより深い理解を生み出すグローバルな文脈の中で、持続的な探究を奨励し、これを実現することを目指しています。このような最終的な経験において、生徒は、信念のある生涯学習者としての自信を育みます。また、自分の学習について考察する能力を向上させ、効果的にコミュニケーションを行い、自らの達成に誇りをもちます。

「個人と社会」コースは、生徒が、「MYPプロジェクト」における成功と楽しみをもたらす、主要な「学習のアプローチ」(ATL)を身につけるうえで役立ちます。「個人と社会」では、ATLスキル、特にコミュニケーション、研究、思考のスキルを実践するための重要な機会を得ます。協働して、あるいは単独で計画策定に取り組むことは、「個人と社会」に欠かせない側面です。

生徒は、この教科の学習経験により、自分のプロジェクトの着想を得られるようになります。「個人と社会」のコースを通じて、さまざまな時代や場所に存在する社会、文化、環境の多様性に出会い、さらにプロジェクトの策定に役立つスキルを習得するでしょう。

「個人と社会」は、行動を通じて学習する機会も多くもたらします。「個人と社会」から得られる「コミュニティープロジェクト」と「パーソナルプロジェクト」のための着想には、以下のような探究への着想が含まれるかもしれません。

- ・ 起業家精神、ビジネスと経済の問題点
- ・ プロパガンダ、主張、現代社会とマスメディアの影響
- ・ ステレオタイプ、アイデンティティ、価値観、文化的適応
- ・ 人文、自然地理上のローカルおよびグローバルな課題
- ・ 重要な個人、集団、考えの歴史的な発展と影響

要件

授業時間

学校は、MYPの「個人と社会」の要件を満たすのに必要な授業時間数を割り当てなければなりません。

MYPは、プログラムの各年次について、各教科で少なくとも50時間の授業時間が必要です。

実際には、教科のねらいと目標を満たして学際的な学習を実現する、持続的で同時並行的な教育を提供するには、通常これよりも多くの時間が必要になります。

IBの中等教育プログラム修了証の取得につながるIBのMYPでの成績を達成しようとする生徒が対象である場合は、「個人と社会」コースは、プログラムの最後の2年次(MYPの第4年次と第5年次)で授業時間がそれぞれ少なくとも70時間必要です。

「個人と社会」の目標の達成

目標B(調査探究)は、研究プロセスにおける生徒のスキルに焦点をあてています。かかる目標の要素は、このプロセスにおいて使われる論理的な順序に従います。この目標/規準を総括的評価の課題に使用する場合は、常に「個人と社会」の他の規準と併せて使用しなければなりません。

MYPの生徒は、プログラムの各年次において「個人と社会」の調査探究に取り組む必要があります。

教師は、総括的評価で目標/規準Bを使用するにあたり「個人と社会」の他の目標/規準を少なくとも1つ組み合わせなければなりません。

「個人と社会」のカリキュラム計画

IBワールドスクール（IB認定校）は、プログラムのねらいと目標を達成するための機会を生徒に提供できるよう、MYPの「個人と社会」コースを開発・構築する責任があります。学校内での「個人と社会」の構成は、地域や国の教育課程など各校が置かれた状況により異なってくるでしょう。

MYPの基準と実践要綱では、学校が、カリキュラム開発とレビューに向けた協働計画を促進・推奨することを義務づけています。

カリキュラムの第1～第5年次の「個人と社会」の目標には、連続性があり、学習の進行の概要を示しています。これらの目標は、形成的評価と総括的評価を含む、発達上適切な学習経験について判断するうえで教師の指針となります。

教師は、プログラムの各年次にわたる「個人と社会」の学年縦断的な結びつきを展開するにあたり、徐々に複数の目標を網羅する複雑な単元へと進むよう計画を立てる必要があります。しかし、この単元の中において、個別の課題や小さい単元は、特定の目標や個々のストランドだけを割り当ててもかまいません。

「個人と社会」のコースは、通常、カリキュラム全体にわたって学際的なつながりを構築するための機会を数多く提供します。プログラムにおける各年次の教科横断的な結びつきによって、「個人と社会」コース全体の「指導」と「学習」が調整されるとともに、共通の概念理解、そして学年を通して一貫性のある学習経験を生み出す、複数の教科にわたる「学習のアプローチ」（ATL）が明らかになるでしょう。

探究による「指導」と「学習」

最も広い意味での探究とは、より深いレベルの理解へ至るために使うプロセスのことです。探究には、推測、調査、質問、関連づけが含まれます。すべてのIBプログラムでは、探究によって好奇心が生まれ、批判的で創造的な思考が促されます。

MY Pは、**グローバルな文脈**において**概念理解**を促すことによって、「個人と社会」の持続的な探究を構築します。教師と生徒は、科目を探究するために**探究テーマ**を開発し、**探究の問い**を利用します。生徒はこの探究を通して、教科の、そして学際的な「**学習のアプローチ**」の特定のスキルを習得します。

概念理解

概念とは「重要な観念 (big idea)」です。これは永続性を持つ原則または観念で、その重要性は特定の起源、対象、または時間を超越するものです。概念は、個人、地域、グローバルに意義のある問題や考えを探究する手段を生徒に提示し、「個人と社会」の本質を探究する方法を提供します。

概念は、事実とトピックを整理し関連づけるなかで、生徒と教師がより複雑に考える必要がある知識の構造において、重要な役割を果たします。

概念は、生徒が生涯にわたる学習という冒険に携えていく理解を表します。概念はまた、原則、一般化、理論を発展させるうえで生徒の助けとなります。生徒は、概念理解を利用して問題を解決し、問題を分析し、自分自身、コミュニティ、そしてより広い世界に影響を与え得る意思決定についての判断を行います。

MY Pにおいて概念理解は、所定の「重要概念」と「関連概念」で構成されます。教師は、カリキュラムを開発するにあたり、これらの概念を用いる必要があります。学校は、地域の条件とカリキュラム要件を満たすために、その他の概念を特定して構築することができます。

重要概念

キーコンセプト
「重要概念」は、幅広いカリキュラムの開発を促すものです。この概念は、教科や科目ごとに、またそれらを横断して関連する「重要な観念 (big idea)」を提示します。「重要概念」の探究により、以下の学習内容を網羅するつながりを容易に見つけることができるようになります。

- ・「個人と社会」の教科内のコース（教科の学習）
- ・他の教科（学際的な学習）

表1は、MYPで探究する「重要概念」を表にしたものです。

「個人と社会」の学習によってもたらされる「重要概念」は、**変化、グローバルなかかわり、体系、時間、場所、空間**です。

美的感性	変化	コミュニケーション	共同体
つながり	創造性	文化	発展
形式	グローバルなかかわり	アイデンティティー	論理
ものの見方	関係性	体系	時間・場所・空間

表1

MYPの「重要概念」

これらの「重要概念」は、「個人と社会」の枠組みを提供するとともに、単元で学習する内容を提示し、「指導」と「学習」の構築に役立ちます。

変化

「変化」とは、1つの形式、状態、価値から別の形式、状態、価値への変換、変容、移行を意味します。「変化」の概念を探究するには、原因と過程と結果を理解し評価する必要があります。

「個人と社会」においては、「変化」の概念によって、過去、現在、未来の世界を形づくる力を考察することができるようになります。変化を引き起こす因果関係は、自然的なものと人為的なものがあり、また故意によるものとそうではないもの、ポジティブ、ネガティブ、そのどちらでもないものがあります。この教科では、「変化」を形成するうえで「個人と社会」がどのような役割を果たすかを探究します。

グローバルなかかわり

概念としての「グローバルなかかわり」とは、個人とコミュニティとの間のつながりに焦点をあてて、個人とコミュニティが人間のつくった環境や自然の環境との間でどのような関係を築いているかを、世界全体の観点から考えるものです。

「個人と社会」においては、「グローバルなかかわり」として人類の大きなコミュニティの相互依存状況をとらえ、複雑に絡み合った世界のなかで限りある資源を分け合うために、どのように人々が対立するのか、協調するのか、共生するのかなどを取り上げます。

体系

「体系」とは、相互作用または相互依存する部分によって構成される何らかの体系です。「体系」は、人類、自然、そして人間のつくった環境に構造と秩序をもたらします。「体系」

は、静的であることもあれば動的であることもあり、また単純な場合もあれば複雑な場合もあります。

「個人と社会」において「体系」を考えることにより、自然と人間の環境、およびそこに存在する個人の役割を理解するための強力な手段がもたらされます。社会の体系と自然の体系は均衡状態のうえに成り立っており、内力と外力からの変化を受けて、容易に壊れる可能性があります。

時間、場所、空間

本質的に絡み合った概念である「時間、場所、空間」とは、人、物、考えの絶対的または相対的な位置づけを意味します。「時間、場所、空間」とは、私たちが所在（「どこ」と「いつ」）の理解をどのように構築し活用するかに焦点をあてるものです。

「個人と社会」において、「時間」は、単に年月や期間の長さを指すのではなく、過去、現在、未来の重要な出来事をつながりという意味します。「場所」と「空間」は複雑な概念であり、その定義は流動的です。「場所」は社会的に構築されていて、所在地ゆえの制約や機会という観点から探究することができます。「場所」には、人間が定義した価値や意味が与えられています。「空間」は、どこに、なぜ、場所や状況が所在するかという問いに関係しています。この概念には社会的、経済的、政治的なプロセスも含まれ、これらのプロセスが空間を通して、または空間全体にわたって相互に作用する結果、移民や貿易の流れといったパターンやネットワークが生じます。「場所」と「空間」に伴う課題は、さまざまな規模（地域、領域、国、グローバルなど）において理解することができます。

他の「重要概念」のなかにも、「個人と社会」にとって重要なものがあります。例えば、「文化」、「発展」、「共同体」は、人文・社会科学の学問にしばしば重要な情報をもたらす「重要概念」です。

「関連概念」

「関連概念」は、掘り下げた学習を促します。この概念は特定の学習分野に基づいており、「重要概念」をより詳細に探究するうえで役に立つものです。「関連概念」を探究することで、生徒は、より複雑で高度な概念理解を育めるようになります。「関連概念」は、単元のテーマまたは科目のクラフト（craft、科目の特徴とプロセス）から生じることがあります。「個人と社会」という教科は、複数の豊かな学習分野が統合されたものなので、生徒は、この教科において、非常に多様な経験を積み重ねることができます。

表2は、「個人と社会」の学習のための「関連概念」を表にしたものです。教師は、単元を計画する際に、この表に記載された「関連概念」のみに制限せず、他の教科のものを含め、その他の概念を選ぶことができます。「総合社会科」、「経済」、「地理」、「歴史」の**定義**は、本資料の巻末（付録）に記載されています。「個人と社会」の他の学習分野の「関連概念」として提案されている**定義**は、MYPの（英語版）『*Individuals and societies teacher support material*（個人と社会の教師用参考資料）』（PRCで入手可能）を参照してください。

教師は、単元計画を策定するにあたって、この表に記載された「関連概念」に限らず、他の教科の「関連概念」なども選ぶことができます。

「個人と社会」の「関連概念」		
「経済」		
選択	消費	公平
グローバル化	成長	モデル
貧困	力・権力	資源
希少	持続可能性	貿易
「地理」		
因果関係（原因／結果）	文化	格差と公平
多様性	グローバル化	管理と関与
ネットワーク	パターンとトレンド	力・権力
過程	規模	持続可能性
「歴史」		
因果関係（原因／結果）	文明	対立
協調	文化	統治
アイデンティティー	イデオロギー	革新と革命
相互依存	ものの見方	重要性
「総合社会科」（「経済」、「地理」、「歴史」に基づく）		
因果関係（原因／結果）	選択	文化
公平	グローバル化	アイデンティティー
革新と革命	ものの見方	力・権力
過程	資源	持続可能性
「個人と社会」の他の学習分野として提案されている「関連概念」		
「経営学」		
因果関係（原因／結果）	競争	協調
文化	倫理	グローバル化
革新	リーダーシップ	力・権力
過程	ストラテジー、戦略	構造

「個人と社会」の他の学習分野として提案されている「関連概念」		
「哲学」		
他性（自己と他者）	存在と生成	信念
因果関係（原因／結果）	人間性	アイデンティティー
知識	自由	精神と身体
客観と主観	個性	価値観
「心理学」		
行動	絆	認知
意識	発達	障害
集団	学習	精神的健康
精神	症状	無意識
「社会学」、「人類学」		
媒介者	共同体	文化
アイデンティティー	制度	意味
規範	社会的相互作用	社会化
社会的地位 （役割／ステータス）	構造	主観性
「政治学」、「公民」、「行政学」		
権威	市民権	対立
協調	グローバル化	政府
イデオロギー	統合・同化	相互依存
リーダーシップ	力・権力	権利
「世界の宗教」		
権威	信念	神
運命	教義	道徳
宗教心	儀式と典礼	聖なるもの
象徴主義	伝統	崇拜

表2
「個人と社会」の「関連概念」

「指導」と「学習」のためのグローバルな文脈

グローバルな文脈があることで、学習は、人類が共有する人間らしさと、共に地球を守る責任に対する、個々のそして共通の探究へと導かれます。MYPの「個人と社会」は、学習の最も広い文脈として世界を利用することによって、以下のような意義ある探究が可能となります。

- ・ アイデンティティと関係性
- ・ 空間的および時間的位置づけ
- ・ 個人的表現と文化的表現
- ・ 科学および技術の革新
- ・ グローバル化と持続可能性
- ・ 公正性と発展

教師は、「指導」と「学習」のためのグローバルな文脈を特定するか、または生徒が探究の妥当性（それが重要である理由）を調査するうえで役立つ付加的な文脈を構築する必要があります。

「個人と社会」の概念に対する探究の多くは、必然的に場所と時系列に焦点をあてることとなります。しかし、この教科のコースでは、時間をかけて、教科のねらいと目標に関連したMYPのすべてのグローバルな文脈を探究する、複数の機会を生徒に提供すべきです。

探究テーマ

探究テーマは、概念理解をグローバルな文脈に組み込み、教室での探究と、直接的で目的ある学習の枠組みをつくるものです。表3は、MYPの「個人と社会」の単元で使うことのできるテーマをいくつか示しています。

探究テーマ	「重要概念」 「関連概念」 「グローバルな文脈」	可能なプロジェクト／学習
グローバル化の過程とその影響に関する個人的・社会的なものの見方は、地域社会の状況と価値観を反映している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバルなかかわり ・ 関係性、力・権力 ・ グローバル化と持続可能性 	富と貧困 グローバル化の動き 文化帝国主義 多国籍企業 世界銀行と他の国際金融機関

探究テーマ	「重要概念」 「関連概念」 「グローバルな文脈」	可能なプロジェクト／学習
複数の国が連盟を形成して、軍事的、文化的、経済的な利益を守る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体系 ・ 対立、協調 ・ アイデンティティと関係性 	<p>平和と対立（パクス・ロマーナ、イギリス帝国、20世紀の戦争）</p> <p>国際協調（国際連盟、国際連合、アラブ連盟）</p> <p>オットー・フォン・ビスマルクとアドルフ・ヒトラー</p>
絶対的および相対的な場所が、人間と経済の開発に対して影響を及ぼす。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間、場所、空間 ・ 規模、格差 ・ 公正性と発展 	<p>経度と緯度</p> <p>GPS（グローバル・ポジショニング・システム）</p> <p>人口</p> <p>国連人間開発指数</p>
通信・輸送交通技術の進歩は、文化的・民族的な少数民族に、機会を与えるとともに問題をもたらす。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 変化 ・ 文化、多様性 ・ 科学技術の革新 	<p>ソーシャルメディア</p> <p>宣伝・広告</p> <p>言語の分布と区分</p> <p>人間の移動</p>
政府、コミュニティ、そして個人は、有害な環境で生活し、危険な状況や災害に対応するための戦略を、時間をかけて開発することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバルなかかわり ・ 持続可能性、管理と関与 ・ 空間的・時間的位置づけ 	<p>救援、復興、再建</p> <p>注意義務</p> <p>リスク評価</p>
社会は、重要な考え方を取り入れ、応用するほか、それに抵抗することもある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 変化 ・ 力・権力、革新と革命、重要性 ・ 個人的表現と文化的表現 	<p>レーニンとスターリン</p> <p>ゲリラ運動と独裁制</p> <p>緑の革命</p> <p>消費者文化</p> <p>抗議運動</p> <p>政治的・経済的イデオロギー</p> <p>歴史上の重要人物</p>

表3

探究テーマの例

探究の問い

教師と生徒は、探究テーマを用いて、事実に基づいた、概念的で、論争の余地のある探究の問いを導き出します。探究の問いは「指導」と「学習」を方向づけるとともに、学習経験を整理して順序づけるうえで役立ちます。

表4は、MYPの「個人と社会」の単元で対象となり得る探究の問いをいくつか示しています。

事実に基づく問い： 事実やトピックに留意する	概念的な問い： 重要な観念 (big ideas) を 分析する	議論の余地がある問い： ものの見方を評価して、 理論を構築する
<ul style="list-style-type: none"> ・ フランス革命の最も重要な原因は何か。 ・ 啓蒙運動で重要な役割を果たした思想家は誰だったか。それらの思想家はアメリカ合衆国憲法の策定にどのような影響を及ぼしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 革命と暴力との間にはどのような関係があるか。 ・ 革命的な政治変化は、一般市民にどのような影響を及ぼすか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひとり人間が世界を変えることは可能か。 ・ 革命は人類の歴史の避けられない部分なのか。

表4

事実に基づく問い、概念的な問い、論争の余地がある問いの例

「学習のアプローチ」

MYPのすべての単元で、生徒は「学習のアプローチ」(ATL)のスキルを習得および実践します。これらのスキルは、教科のねらいと目標を満たすために努力している生徒にとって、貴重なサポートとなります。

ATLスキルは、国際教育としてのIBの一貫教育にわたって5つのカテゴリーに分類されます。IBプログラムは、教室内および教室以外で導入、実践、統合できる、各カテゴリーの個別のスキルを特定します。

ATLスキルはMYPのすべての教科に関連するものですが、教師は、特定の教科またはコースに固有の、または特に関連性の高いATLスキルの指標を特定することもできます。

表5は、「個人と社会」において重要となり得る指標をいくつか示しています。

カテゴリー	スキルの指標
思考スキル	他のものの見方や視点からの考えを、討論のなかで検討する。
社会性スキル	教師や同輩などの他者に批判やフィードバックを求め、それを自分の成果物に反映させるかどうかについて、情報に基づいて意思決定を行う。
コミュニケーションスキル	学術的な実地調査報告書にとってふさわしい執筆形式を使用する。
自己管理スキル	口述プレゼンテーションで情報を適切に構成する。
リサーチスキル	挑戦的であり、かつ関連性の高い研究課題を設定して調査する。

表5

「個人と社会」に特有のスキルの指標の例

よくデザインされた学習への取り組みと評価は、生徒がATLスキルを実践・実証する豊かな機会を提供します。MYPの各単元は、「指導」と「学習」で重点を置き、またそれを通して生徒が自分の能力を実際に示すことができるATLスキルを明確に特定します。形成的評価は、個別のスキルを習得するための重要なフィードバックを提供し、また、多くのATLスキルは、生徒が教科目標の総括的評価において自分の達成度を示すのに役立ちます。

表6は、「個人と社会」における理解のパフォーマンスによって生徒が示すことのできる、特定のATLスキルをいくつか示しています。

「学習のアプローチ」
自己管理 スキル（ 振り返り ）：研究方法の長所と短所を振り返る。
思考 スキル（ 転移 (transfer) ）：21世紀にも及び続けている産業革命の影響を探究する。

表6

「個人と社会」におけるATLスキルの実証の例

科目別のガイダンス

学校における「個人と社会」の構成

生徒がMYPの「個人と社会」の目標を最も高いレベルで達成するために、教師は、バランスのとれたカリキュラムを計画すべきです。これには、生徒が学習する社会の社会的、文化的、宗教的、民族的な多様性、およびそれらの社会のなかで要人が果たす役割など、重要な内容を含める必要があります。

- ・ 学校は、地域の事情や教育課程に合わせてMYPの「個人と社会」のコースを構成することができます。
- ・ 幅広くバランスのとれたカリキュラムを提供するため、学校は、関連するさまざまな学習分野を含んだ「個人と社会」のコースを策定すべきです。

学校のカリキュラムには、他の必須教科と同時に、MYPのこの教科のコースを毎年1つ以上含めなければなりません。

学校は、MYPの「個人と社会」の学習を以下のように構成することができます。

- ・ 個別の学習分野に焦点をあてる個別の科目として
- ・ 複数の学習分野を含み、ただし1つずつ学習分野を取り上げていくモジュール化された科目として
- ・ 複数の学習分野の視点を組み込んだ総合的な科目として

科目のタイプ	説明	注
個別の学習分野に焦点をあてる個別の科目	<p>1つまたは複数の個別の科目として「個人と社会」を指導します(例えば、「歴史」、「地理」、「政治」、「経済」、「世界の宗教」、「哲学」、「公民」、「人類学」など)。</p> <p>生徒は、毎年(または学年中の特定の期間にわたって)1つまたは複数の学習分野を学習します。</p> <p>各科目の修了時に、生徒には、その学習分野での到達レベルに応じて成績が付与されます。</p>	<p>個別の科目はそれぞれ、以下の要件を満たします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必須の(学習分野に関連した)「関連概念」を使用する。 ・ 生徒が教科の目標をすべて達成できるようにする。 ・ 教科の必須授業時間数に計上される。

科目のタイプ	説明	注
時間をかけて複数の学習分野を学習するモジュール化された科目	<p>生徒は、学年中の特定の期間にわたって「モジュール」を学習します。各モジュールでは、1つの学習分野を取り上げます（例えば、「歴史」、「地理」、「政治」、「経済」、「世界の宗教」、「哲学」、「公民」、「人類学」など）。</p> <p>各モジュールを別の教師が指導することもできれば、同じ教師が複数の（またはすべての）モジュールを指導することもできます。</p> <p>科目の修了時に、「個人と社会」の到達レベルに対して1つの成績が生徒に付与されます。</p>	<p>モジュール化された科目は全体として、以下の要件を満たします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・含まれる個別の学習分野に必須の「関連概念」を使用する。 ・生徒が教科の目標をすべて達成できるようにする。 ・教科の必須授業時間数を満たす。
複数の学習分野の視点を組み込んだ総合的な科目	<p>生徒は、複数のものの見方による探究を要求する学際的単元を学習しながら、教科内の複数の学習分野からの知識と概念理解を統合します。</p> <p>科目の修了時、「個人と社会」または「総合社会科」に含まれる特定のMYPコースの到達レベルに対して生徒に1つの成績が付与されます。</p> <p>学際的単元の開発について、詳しくは、IB資料（英語版）『<i>Fostering interdisciplinary teaching and learning in the MYP</i>（MYPにおける学際的な「指導」と「学習」の促進）』（2014年刊）をご覧ください。</p>	<p>総合的な科目はそれぞれ、以下の要件を満たします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連性の高い「個人と社会」の学習分野の「関連概念」を使用する。 ・生徒が教科の目標をすべて達成できるようにする。 ・教科の必須授業時間数を満たす。 <p>「総合社会科」のMYPコースでMYPの成績を取得するには、「歴史」、「地理」、「経済」の概念理解を組み込む必要があります。これについては、19～21ページに記載されている「関連概念」の必須リストを参照してください。</p>

評価課題

MYPの「個人と社会」の評価課題には、多くの場合、テストまたは試験、小論文へとつながる調査または研究、そして他のさまざまな口述課題、記述課題、マルチメディア課題が含まれます。

「目標B：調査探究」の評価

調査スキルを伸ばすのに役立つ課題には、小論文やリサーチペーパー、実地調査、ウェブリサーチ、課題解決型学習、ロールプレイなどがあります。

第3年次と第5年次の目標／規準で「明確かつ的の絞られた研究課題」を定義する際は、関連性、妥当性、独創性、評価への適性、リソースの利用可能性、生徒の興味のレベル、学習分野や教科とのつながりといった要素を考慮することができます。生徒は、広すぎる、狭すぎる、あいまいすぎる、難しすぎる、または不適切な研究課題を選ぶべきではありません。優れた研究課題とは、問う価値のあることを問い、かつ語数や時間の制限内で答えることのできる研究課題のことを指します。研究課題は、その問いに対して証拠^{エビデンス}と見なされるものが明確であり、またそのような証拠を調査の過程で入手できるものでなければなりません。

生徒は、目標Bが関係するすべてのケースで研究課題を設定する必要はありません。研究課題は、教師が提示できます。また、研究課題は、1つの研究テーマとしても複数の研究課題としても設定することができます。さまざまな問いが生徒に提示される場合、教師は、生徒が研究課題を選んだ理由づけを評価すべきであって、その設定自体は評価しません。第3年次と第5年次の生徒は、学年のどこかの時点で研究課題を設定することが期待されています。

情報収集の方法には、情報源（その情報の種類と範囲）の選定、アンケート、調査票、聞き取り調査、観察、実験、測定、統計とデータベースの使用、サブクエスションの設定などが含まれます。

情報記録（電子的または紙）の方法には、ノートへの記録と要約、表、グラフ、マップ、チェックリストの作成、思考ツール、視覚的オーガナイザー、マインドマップの作成、インデックス作成、年表などの視覚要素の作成、データベースの作成などが含まれます。

情報源には、一次資料と二次資料、オンラインおよび印刷資料、電子メディア、複数のものの見方（文化、地理、イデオロギー、アイデンティティ、時代などの観点から）などが含まれます。

「目標C：コミュニケーション」の評価

学習したことを伝達するための解答の形式には、記述レポート、口述プレゼンテーション、動画、ストーリーボード、マップ、図解、フローチャート、スライドショー・プレゼンテーション、ポッドキャスト、アニメーション、ウェブサイト、データベース、マルチメディア、ビデオなどが含まれます。視覚要素とは、マップ、図解、グラフ、年表、表などを指します。

目標と評価基準の整合性

MYPにおける評価は、指導計画および授業方法と緊密に連携しています。MYPの「個人と社会」のそれぞれのストランドは、教科の評価基準のストランドと対応しています。図3は、この整合性、そして、到達レベルが高いほど、生徒のパフォーマンスに対する要求が複雑化する様子を示しています。

到達レベル	レベルの説明
0	以下に記す基準に達していない。
1～2	以下の基準に達している。 i. 関連する用語を 限定的に 使用している。 ii. 最低限の 記述や事例を通じて、内容と概念の 基本的な 知識と理解を示している。
3～4	以下の基準に達している。 i. いくつかの 用語を 正確かつ適切に 使用している。 ii. 十分な 記述、説明、事例を通じて、内容と概念の 適切な 知識と理解を示している。
5～6	以下の基準に達している。 i. 一定範囲の用語を 正確かつ適切に 使用している。 ii. 正確な 記述、説明、事例を通じて、内容と概念の 相当な 知識と理解を示している。
7～8	以下の基準に達している。 i. 広範囲の 用語を 一貫して効果的に 使用している。 ii. 綿密かつ 正確な 記述、説明、事例を通じて、内容と概念の非常に 優れた 知識と理解を示している。

規準 A：知識と理解

第5年次の終了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 文脈に合った広範囲の用語を使う。
- ii. 高度な記述や説明、または事例を通して、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。

図3

個人と社会の学習目標と評価基準の整合性

評価規準の概要

プログラムのすべての年次における「個人と社会」の評価は、評価規準に準拠した「絶対評価」であり、配点比率の等しい4つの評価規準に基づいています。

規準A	知識と理解	最高点：8
規準B	調査探究	最高点：8
規準C	コミュニケーション	最高点：8
規準D	批判的思考	最高点：8

教科では、MYPの各年次で、**少なくとも2回**、4つすべての評価規準の**すべての**ストランドを評価しなければなりません。

MYPでは、教科目標は評価規準に対応しています。各規準には、8つの到達レベル（1～8）があり、一般に、パフォーマンスが限られている（1～2）、十分である（3～4）、優れている（5～6）、きわめて優れている（7～8）ことを示す、4つのバンド（採点基準）に分かれています。各バンドには、それぞれ固有のレベルの説明があり、教師はこれを用いて生徒の進歩と達成度について「ベストフィット」の判断をします。

この指導の手引きは、MYPの「個人と社会」の第1、第3、第5年次を対象に、**求められる評価規準**を提示しています。学校は、国や地域の要件に応じて、規準を付け加えられるほか、評価の追加モデルを用いることもできます。学校は、この指導の手引きに記載されている適切な評価規準を使用して、プログラムにおける生徒の最終的な達成度を報告しなければなりません。

教師は、これらの評価規準に直接言及して、それぞれの総括的評価の課題に期待されていることを明らかにします。評価課題ごとに説明することで、生徒が知るべき、行うべきことが明確になります。これは、以下の形式で行います。

- ・ 求められる評価規準の課題ごとのバージョン
- ・ 対面、またはバーチャルなクラス討論
- ・ 詳細なタスクシートまたは課題

「個人と社会」の評価規準：第1年次

規準A：知識と理解

最高点：8

第1年次の終了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 文脈に合った語彙を使う。
- ii. 記述や説明、または事例を使って、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。

到達レベル	レベルの説明
0	以下に記す基準に達していない。
1～2	以下の基準に達している。 i. 語彙を いくらか認識 している。 ii. 限定的な 記述や事例を通じて、内容と概念の 基本的な 知識と理解を示している。
3～4	以下の基準に達している。 i. 語彙を いくらか使用 している。 ii. 単純な 記述、説明、事例を通じて、内容と概念の 十分な 知識と理解を示している。
5～6	以下の基準に達している。 i. 関連性のある 語彙を 多く使用 しており、その使用は 大体において正確 である。 ii. 記述、説明、事例を通じて、内容と概念の 相当な 知識と理解を示している。
7～8	以下の基準に達している。 i. 関連性のある 語彙を 一貫して正確 に使用している。 ii. 詳細な 記述、説明、事例を通じて、内容と概念の 非常に優れた 知識と理解を示している。

規準B：調査探究

最高点：8

第1年次の終了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 研究課題の選択を説明する。
- ii. 研究課題を探究するための行動計画を実践する
- iii. 研究課題にとって関連性のある情報を収集し記録する。
- iv. 調査のプロセスと結果を振り返る。

到達レベル	レベルの説明
0	以下に記す基準に達していない。
1～2	以下の基準に達している。 i. 研究課題を 特定 している。 ii. 研究課題を探究するための行動計画を 限定的な方法 で実践している。 iii. 情報を 限定的な範囲 で収集し記録している。 iv. 指導を得て 、研究のプロセスと結果を 限定的な範囲 で振り返っている。
3～4	以下の基準に達している。 i. 研究課題の選択を 記述 している。 ii. 研究課題を探究するための行動計画を 部分的に 実践している。 iii. いくらか関連性のある 情報を収集し記録するための方法を 活用 している。 iv. 指導を得て 、研究のプロセスと結果を いくらか深いレベル で振り返っている。
5～6	以下の基準に達している。 i. 研究課題の選択を 詳細に記述 している ii. 研究課題を探究するための行動計画を おおむね 実践している。 iii. 大体において関連性のある 情報を収集し記録するための方法を 活用 している。 iv. 研究のプロセスと結果を 振り返っている 。
7～8	以下の基準に達している。 i. 研究課題の選択を 説明 している。 ii. 研究課題を探究するための行動計画を 効果的に 実践している。 iii. 一貫して関連性のある 情報を収集し記録するための方法を 活用 している。 iv. 研究のプロセスと結果を 徹底的に 振り返っている。

規準C：コミュニケーション

最高点：8

第1年次の終了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 情報や考えを明確に伝達する。
- ii. 課題にとって効果的に、情報や考えを整理する。
- iii. 課題の指示に従った方法で、情報源を列挙する。

到達レベル	レベルの説明
0	以下に記す基準に達していない。
1～2	以下の基準に達している。 i. あまり明確でない スタイル（文体）で、情報や考えを伝達している。 ii. 情報や考えを 限定的な方法 で整理している。 iii. 課題の指示に従っておらず、 一貫性がない 状態ではあるが、情報源を列挙している。
3～4	以下の基準に達している。 i. 幾分か 明確な方法で、情報や考えを伝達している。 ii. 情報や考えを 幾分か 整理している。 iii. 課題の指示に ときどき 従う方法で、情報源を列挙している。
5～6	以下の基準に達している。 i. おおむね 明確な方法で、情報や考えを伝達している。 ii. 情報や考えを おおむね 整理している。 iii. 大体において 課題の指示に従う方法で情報源を列挙している。
7～8	以下の基準に達している。 i. 完全に 明確な方法で、情報や考えを伝達している。 ii. 情報や考えを 完全かつ効果的に 整理している。 iii. 課題の指示に 常に 従う方法で、情報源を列挙している。

規準D：批判的思考

最高点：8

第1年次の終了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 見解、出来事、視覚表現、議論の要点を特定する。
- ii. 意見を正当化するために情報を活用する。
- iii. 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から特定し、分析する。
- iv. さまざまな見方とそこに含まれる意味を特定する。

到達レベル	レベルの説明
0	以下に記す基準に達していない。
1～2	以下の基準に達している。 i. 見解、出来事、視覚表現、議論の要点を 限定的な範囲 で特定している。 ii. まれにはあるが 、意見を正当化するために情報を活用している。 iii. 情報源やデータの出典と目的を 限定的に 特定している。 iv. さまざまな見方を いくつか 特定している。
3～4	以下の基準に達している。 i. 見解、出来事、視覚表現、議論の要点を いくつか 特定している。 ii. いくつかの 情報を活用して意見を正当化している。 iii. 情報源やデータの出典と目的を 特定 している。 iv. さまざまな見方のうちの いくつか を特定して、そこに含まれる意味を いくつか 提示している。
5～6	以下の基準に達している。 i. 見解、出来事、視覚表現、議論の要点を 特定 している。 ii. 情報を使用して意見を 十分に 正当化している。 iii. 情報源やデータの出典と目的を 幅広く 特定している。 iv. さまざまな見方とそこに含まれる意味を おおむね 特定している。
7～8	以下の基準に達している。 i. 見解、出来事、視覚表現、議論の要点を 詳細に 特定している。 ii. 情報を活用して意見を 詳細に 正当化している。 iii. 幅広い 情報源やデータを出典や目的という観点から 一貫して 特定し、分析している。 iv. さまざまな見方とそこに含まれる意味を 一貫して 特定している。

「個人と社会」の評価規準：第3年次

規準A：知識と理解

最高点：8

第3年次の終了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 文脈に合った幅広い用語を使う。
- ii. 記述や説明、または事例を通して、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。

到達レベル	レベルの説明
0	以下に記す基準に達していない。
1～2	以下の基準に達している。 i. 用語を 限定的 に使用している。 ii. 限定的な 記述や事例を通じて、内容と概念の 基本的な 知識と理解を示している。
3～4	以下の基準に達している。 i. いくつかの 用語を 正確 に使用している。 ii. 単純な 記述、説明、事例を通じて、内容と概念の 十分な 知識と理解を示している。
5～6	以下の基準に達している。 i. 関連性のある 用語を 多く かつ 正確 に使用している。 ii. 記述、説明、事例を通じて、内容と概念の 相当な 知識と理解を示している。
7～8	以下の基準に達している。 i. 幅広い 用語を 一貫して正確 に使用している。 ii. 高度 かつ 正確な 記述、説明、事例を通じて、内容と概念の非常に 優れた 知識と理解を示している。

規準B：調査探究

最高点：8

第3年次の終了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 明確かつ的の絞られた研究課題を設定または選択し、その関連性を説明する。
- ii. 研究課題を調査するための行動計画を策定し実践する。
- iii. 関連性のある情報を収集し記録するための方法を活用する
- iv. 指導を得て、調査のプロセスと結果を評価する。

到達レベル	レベルの説明
0	以下に記す基準に達していない。
1～2	以下の基準に達している。 i. 明確で関連性があり、かつ的の絞られた研究課題を 特定 している。 ii. 限定的な 行動計画を策定しているが、計画を実践していない。 iii. 限定的な 情報または ときどき関連性のない 情報を収集し 記録 している。 iv. 指導を得て、研究のプロセスと結果を 限定的な 方法で 振り返っている 。
3～4	以下の基準に達している。 i. 明確かつ的の絞られた研究課題を 設定または選択 し、その関連性を 記述 している。 ii. 研究課題を調査するための 部分的な 行動計画を策定して、 ときどき 実践している。 iii. いくらか関連性のある 情報を収集し記録するための方法を活用している。 iv. 指導を得て、研究のプロセスと結果を 振り返っている 。
5～6	以下の基準に達している。 i. 明確かつ的の絞られた研究課題を設定または選択し、その関連性を 詳細に記述 している。 ii. 研究課題を調査するための 十分に考えられた 行動計画を策定して、 おおむね 実践している。 iii. 適切かつ関連性のある 情報を収集し記録するための方法を活用している。 iv. 指導を得て、研究のプロセスと結果を 評価 している。
7～8	以下の基準に達している。 i. 明確かつ的の絞られた 研究課題を設定または選択し、その関連性を 説明 している。 ii. 研究課題を調査するための 効果的な 行動計画を策定して、 一貫して 実践している。 iii. 適切かつ関連性のある さまざまな情報を収集し記録するための方法を活用している。 iv. 指導を得て、研究のプロセスと結果を 詳細に評価 している。

規準C：コミュニケーション

最高点：8

第3年次の終了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 受け手と目的にとって適切な方法で、情報や考えを伝達する。
- ii. 課題の指示に従って、情報や考えを構成する。
- iii. 引用文献のリストを作成し、情報源に言及する。

到達レベル	レベルの説明
0	以下に記す基準に達していない。
1～2	以下の基準に達している。 i. 受け手と目的にとって 必ずしも適切でない 方法で、情報や考えを伝達している。 ii. 情報や考えを 限定的な 方法で整理している。 iii. 一貫性がない 状態ではあるが、情報源を 列挙 している。
3～4	以下の基準に達している。 i. 受け手と目的にとって 幾分か 適切な方法で、情報や考えを伝達している。 ii. 情報や考えを 幾分か 整理している。 iii. 適切な 引用文献リストを作成し、 時おり 情報源に言及している。
5～6	以下の基準に達している。 i. 受け手と目的にとって おおむね 適切な方法で、情報や考えを伝達している。 ii. 課題の指示に従って、 おおむね 情報や考えを構成している。 iii. 適切な 引用文献リストを作成し、 たいていは 情報源に言及している。
7～8	以下の基準に達している。 i. 受け手と目的にとって 完全に 適切な方法で、情報や考えを伝達している。 ii. 課題の指示に従って、 完全に 情報や考えを構成している。 iii. 完全な 引用文献リストを作成し、 常に 情報源に言及している。

規準D：批判的思考

最高点：8

第3年次の終了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論を分析する。
- ii. 情報を要約して、有効かつ論拠のある主張を行う。
- iii. 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から分析し、その価値や限界を認識する。
- iv. さまざまなものの見方を認識し、そこに含まれる意味を説明する。

到達レベル	レベルの説明
0	以下に記す基準に達していない。
1～2	以下の基準に達している。 i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論を 限定的な方法で分析し始めている 。 ii. 単純な 主張を行うために、情報のつながりを 特定し始めている 。 iii. わずかな 情報源やデータの出典と目的を認識して、その価値や限界も わずかに認識 している。 iv. さまざまなものの見方を 特定 している。
3～4	以下の基準に達している。 i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論の 単純な分析 を完了している。 ii. 情報を 要約 して、 適切な 主張を いくつか 行っている。 iii. 情報源やデータを出典や目的という観点から 分析 し、その価値や限界の いくつか を認識している。 iv. さまざまなものの見方を 認識 して、そこに含まれる意味を いくつか 提示 している。
5～6	以下の基準に達している。 i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論の 適切な 分析を完了している。 ii. 情報を 要約 して、 たいていは有効な 主張を行っている。 iii. 情報源やデータを出典や目的という観点から 分析 し、その価値や限界を たいていは 認識している。 iv. さまざまなものの見方を 明確に 認識して、そこに含まれる意味を おおむね記述 している。
7～8	以下の基準に達している。 i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論の 詳細な 分析を完了している。 ii. 情報を 要約 して、 一貫した論拠のある 主張を行っている。 iii. 幅広い 情報源やデータを出典や目的という観点から 効果的に 分析し、その価値や限界を 一貫して 認識している。 iv. さまざまなものの見方を 明確に 認識して、そこに含まれる意味を 一貫して説明 している。

「個人と社会」の評価規準：第5年次

規準A：知識と理解

最高点：8

第5年次の終了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 文脈に合った広範囲の用語を使う。
- ii. 高度な記述や説明、または事例を通して、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。

到達レベル	レベルの説明
0	以下に記す基準に達していない。
1～2	以下の基準に達している。 i. 関連する用語を 限定的に 使用している。 ii. 最低限の 記述や事例を通じて、内容と概念の 基本的な 知識と理解を示している。
3～4	以下の基準に達している。 i. いくつかの 用語を 正確かつ適切に 使用している。 ii. 十分な 記述、説明、事例を通じて、内容と概念の 適切な 知識と理解を示している。
5～6	以下の基準に達している。 i. 一定 範囲の 用語を 正確かつ適切に 使用している。 ii. 正確な 記述、説明、事例を通じて、内容と概念の 相当な 知識と理解を示している。
7～8	以下の基準に達している。 i. 広範囲の 用語を 一貫して効果的に 使用している。 ii. 綿密かつ正確な 記述、説明、事例を通じて、内容と概念の非常に 優れた 知識と理解を示している。

規準B：調査探究

最高点：8

第5年次の終了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 明確かつ的の絞られた研究課題を設定し、その関連性を正当化する。
- ii. 研究課題を調査するための行動計画を策定し実践する。
- iii. 適切で多様かつ関連性のある情報を収集し記録するための研究方法を活用する。
- iv. 調査のプロセスと結果を評価する。

到達レベル	レベルの説明
0	以下に記す基準に達していない。
1～2	以下の基準に達している。 i. 明確 または 的の絞られた研究課題を設定し、その関連性を 記述 している。 ii. 研究課題を調査するための 限定的な 行動計画を策定しているが、計画を実践していない。 iii. 研究課題に必ずしも一貫性がない情報を 限定的に 収集し記録している。 iv. 調査のプロセスと結果を 限定的に 評価している。
3～4	以下の基準に達している。 i. 明確かつ的の絞られた 研究課題を設定し、その関連性を詳細に 記述 している。 ii. 研究課題を調査するための行動計画を 部分的に 策定して、 幾分か 実践している。 iii. おおむね関連性のある 情報を収集し記録するための研究方法を活用している。 iv. 調査のプロセスと結果の いくつかの 側面を評価している。
5～6	以下の基準に達している。 i. 明確かつ的の絞られた 研究課題を設定し、その関連性を 説明 している。 ii. 研究課題を調査するための 相当な 行動計画を策定して実践している。 iii. 適切かつ関連性のある 情報を収集し記録するための調査方法を活用している。 iv. 調査のプロセスと結果を 評価 している。
7～8	以下の基準に達している。 i. 明確かつ的の絞られた 研究課題を設定し、その関連性を 正当化 している。 ii. 研究課題を調査するための 包括的な 行動計画を策定して、 効果的に 実践している。 iii. 適切で多様かつ関連性のある 情報を収集し記録するための研究方法を活用している。 iv. 研究のプロセスと結果を 徹底的に 評価している。

規準C：コミュニケーション

最高点：8

第5年次目の終了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 受け手や目的にとって適切なスタイル（文体）を効果的に使用して、情報や考えを伝達する。
- ii. 特定の形式にふさわしい方法で、情報や考えを構成する。
- iii. 広く認知された表現技法に則って、情報源を記録する。

到達レベル	レベルの説明
0	以下に記す基準に達していない。
1～2	以下の基準に達している。 i. 限定的 ではあるが受け手や目的にとって適切なスタイル（文体）を使用して、情報や考えを 限定的な方法 で伝達している。 ii. 限定的な方法 の中の特定の形式に従って、情報や考えを構成している。 iii. 限定的な方法 で、情報源を記録している。
3～4	以下の基準に達している。 i. 受け手や目的にとって 幾分か 適切なスタイル（文体）を使用して、情報や考えを 十分に 伝達している。 ii. 特定の形式に 幾分か ふさわしい方法で、情報や考えを構成している。 iii. ときどき 、広く認知された表現技法に則って情報源を記録している。
5～6	以下の基準に達している。 i. 受け手や目的にとって おおむね 適切なスタイル（文体）を使用して、情報や考えを 正確に 伝達している。 ii. 特定の形式に おおむね ふさわしい方法で、情報や考えを構成している。 iii. 大体において 、広く認知された表現技法に則って情報源を記録している。
7～8	以下の基準に達している。 i. 受け手や目的にとって 完全に 適切なスタイル（文体）を使用して、情報や考えを 効果的かつ正確に 伝達している。 ii. 特定の形式に 完全に ふさわしい方法で、情報や考えを構成している。 iii. 一貫して 、広く認知された表現技法に則って情報源を記録している。

規準D：批判的思考

最高点：8

第5年次目の終了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論について議論する。
- ii. 情報を統合して、有効かつ論拠のある主張を行う。
- iii. 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から分析・評価し、その価値や限界を考察する。
- iv. さまざまなものの見方とそこに含まれる意味を解釈する。

到達レベル	レベルの説明
0	以下に記す基準に達していない。
1～2	以下の基準に達している。 i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論を 限定的な範囲 で分析している。 ii. 限定的な範囲 で情報を 要約 して、主張を行っている。 iii. 限られた数 の情報源やデータを出典や目的という観点から 記述 し、その価値や 限界 を わずかに認識 している。 iv. さまざまなものの見方とそこに含まれる 最低限の意味 を 特定 している。
3～4	以下の基準に達している。 i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論を 分析 している。 ii. 情報を 要約 して、主張を行っている。 iii. 情報源やデータを出典や目的という観点から 分析または評価 し、その価値や限界の いくつか を認識している。 iv. さまざまなものの見方とそこに含まれる意味を いくつか 解釈している。
5～6	以下の基準に達している。 i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論について 議論 している。 ii. 情報を 統合 して、 有効な 主張を行っている。 iii. 幅広い 情報源やデータを 出典や目的 という観点から 効果的に分析 および 評価 し、その価値や限界を たいてい 認識している。 iv. さまざまなものの見方とそこに含まれる意味を 解釈 している。
7～8	以下の基準に達している。 i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論の 詳細な議論 を完了している。 ii. 情報を統合して、 有効かつ論拠のある 主張を行っている。 iii. 幅広い 情報源やデータを 出典や目的 という観点から 効果的に分析 および 評価 し、その価値や限界を 一貫して 認識している。 iv. 幅広い さまざまなものの見方とそこに含まれる意味を 徹底的に 解釈している。

e アセスメント

MYPの「個人と社会」に関し、**MYPでの成績取得**を目指す生徒は、コンピュータ上での試験を受け、教科目標の到達レベルを実証することができます。十分な結果を出せば、**MYP修了証**の取得につながります。

この学習試験では、IB資料（英語版）『*Guide to MYP eAssessment*（MYPのeアセスメントのガイド）』に記載されている基準が一貫して正確に適用されます。

注：2017年の9月にMYPの主要な資料が改定され、eアセスメントの内容が盛り込まれました。該当資料の英語版、フランス語版、またはスペイン語版を参照してください。

「個人と社会」の「関連概念」

「経済」	
関連概念	定義
選択	<p>「選択」とは、1つを選ぶことでもう1つは選べなくなる（例えば、カメラを買えば、そのお金で電話は買えなくなる）ということを知ったうえで、2つ以上の選択肢の中から意思決定を行うことを意味します。物には限りがある（有限の資源によって無限のニーズや欲求が満たされる）ため、私たちは、もてる資源でどのニーズや欲求を満たすかを選択しなければなりません。</p> <p>私たちは、経済的な選択を以下の3つの具体的な質問に落とし込んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、どの製品をつくるべきか。また、それぞれをどれだけ生産すべきか。 ・私たちは、どのように製品をつくるべきか（物品を生産するために資源をどのように組み合わせるべきか）。 ・私たちがつくる製品を、誰の手に渡すべきか（例えば富や公正など、どの規準に基づいて製品を分配すべきか）。
消費	<p>「消費」とは、当座のニーズや欲求を満たすために製品を使用することです。ニーズや欲求を直接満たすために私たちが使用する製品は、消費財と呼ばれます（例えば、テレビは娯楽の欲求を満たします）。消費の代わりとなるものに、投資や保存があります。投資においても製品は生産されますが、他の物品やサービスをつくるために活用されます。即座に消費されません。保存の場合は、資源を保護するために生産が回避されます。投資や保存により、将来のより多くの消費が可能となります。消費と投資と保存の正しい組み合わせについては、議論の分かれるところです。</p>
公平	<p>「公平」は、公正や正義についての問題に関係します。公平に関しては、経済のつくり出す製品の分配が主な問題となっています。より多くの収入と富を有する人は、より多くの製品を消費することができます。そして、消費の差異があまりに大きくなると、不公平や不公正という極端な状況が生まれる可能性が生じます。何をもちて公正かつ公平な消費の分配とするかは、議論の分かれるところです。</p>

「経済」	
関連概念	定義
グローバル化	<p>「関連概念」としての「グローバル化」は、私たちの世界が「小さくなりつつある」ことにより生じる地域、国、さらにはグローバルなレベルでの影響や期待を含意します。</p> <p>経済のグローバル化とは、各国の経済がますます統合され、資源や製品、そして情報が国境を越えてより自由に流通することを意味します。グローバル化は継続的なプロセスであって、加速することあれば減速することもあり、後戻りすることすらあります。現在、国家間には、経済統合をさまざまな度合いに高めるための多数の取り決めが存在しています（さまざまな種類の貿易圏）。しかし、国境を越えた資源、製品、情報の動きを制限するための行動を政府や他の集団がとることで、グローバル化を減速させ、また後戻りさせることもできます。これらを引き起こす理由は多くあり、戦争のほか、国内産業を保護したいという欲求、輸入関税を徴収したいという欲求などが挙げられます。</p>
成長	<p>「成長」とは、ある経済圏で生産されるすべての物品やサービスの価値が増すことを意味します。社会的資源の量が増える結果として、あるいは既存の資源の使用効率が高まる結果として、成長が促される場合もあります。経済成長が発展（その経済圏に住むすべての人の福祉の向上）につながるかどうかは、どの製品が生産されるか、それらがどのように分配されるかによって変わってきます。</p>
モデル	<p>「モデル」とは、経済の特定の側面を単純化するシミュレーションです。実際の経済は複雑であり、実験にあたって必要な変数をコントロールすることが難しいため、モデルが必要になります。経済モデルを構築する際、私たちは、実体経済の複雑さと人間の行動は予測不能であるという事実をどこまで組み込むかという問題に直面します。</p>
貧困	<p>「貧困」とは、適切なレベルの消費を行うことができない人々の状況を意味します。衣食住など生存のための基本的なニーズを満たせないことを、貧困生活を送っているといえます。しかし、適切なレベルの消費とは基本的な必需品以上のものを指し、教育や医療を含むと論じる人もいます。このため、どのレベルの消費を下回った時に貧困と見なすかは、議論の分かれるところです。</p>

「経済」	
関連概念	定義
力・権力	<p>個人や集団の「力」や「権力」は、何かを起こす能力と定義することができます。</p> <p>経済学における力・権力とは、何を生産するか、どのように生産するか、生産した物品を誰に分配するかを選択する能力です。力や権力は、中央集権化することがあります。政府が経済の選択を行う指令経済、ひと握りの大手企業が経済の選択を行う独占や寡占の状況は、これに該当します。また、力や権力は、分散することもあります。多数の企業と消費者が力と権力を共有する自由市場経済が、これに該当します。</p>
資源	<p>「資源」とは、私たちがニーズや欲求を満たす製品をつくるために使用するものです。経済学者は、これを生産要素と呼ぶこともあり、土地、労働、資本、さらに起業家精神および経営管理という4つの主なカテゴリーに分けています。起業家は、さまざまな物品やサービスを生産するために、土地、労働、資本をさまざまな方法で組み合わせます。例えば、野菜と果物を販売する店の店主（起業家）は、野菜と果物（自然資源、土地）、店舗の所在する建物（資本）、そして自分や従業員の仕事（労働）を組み合わせ、製品を消費者に提供します（野菜と果物を便利なロケーションで販売します）。</p>
希少	<p>物品は、価格がゼロの場合に需要が供給を上回れば、「希少」となります。物品に価格をつけることは、希少の問題に対応するのに役立ちます。希少の状況は、私たちのニーズと欲求が無限である一方、そのニーズと欲求を満たすために使うことのできる資源は有限であるという事実から生じます。この結果、私たちは、どのニーズと欲求を満たし、どれを満たさないかを選択しなければなりません。満たされないニーズと欲求は、満たされるニーズと欲求のコストといえます。例えば、本ではなくテレビを生産するために資源を使うことを選択した場合、そのテレビのコストは、テレビに資源を費やした結果つくることのできなくなった本であるといえます。このように経済的に理解されたコストのことを、しばしば「機会費用」と称します。</p>

「経済」	
関連概念	定義
持続可能性	<p>「持続可能性」の概念は、私たちが有する財産の範囲内で生活するという考え方を示唆するものであり、環境システムと社会との間の相互作用の性質を理解するうえで欠かすことができません。</p> <p>持続可能性とは、私たちが現在のニーズと欲求を満たしながら、将来の世代がニーズと欲求を満たす能力を損なわない状況です。持続可能性は、資源を保護すること（物品を生産するために使用しないこと）、製品をより効率よく生産する方法を見つけること（生産の過程で使用する資源を減らすこと）、または新しい資源を見つけることによって、高めることができます。現代の拡大した消費は、より少ない資源で同じ製品を生産する高効率な生産を実現しないかぎり、持続可能性を害する可能性があります（例えば、住宅の暖房に必要なエネルギーを得るには、大量の木材を必要としますが、天然ガスを使えば比較的少量で済むため、この目的においては天然ガスのほうが持続可能性の高い資源の選択となります）。</p>
貿易	<p>「貿易」とは、経済のさまざまな参加者の間で物品やサービスを交換することです。人々が、国境を越えた貿易も含めて自由に貿易することが可能な場合、たいていは全体の富が拡大します。しかし、この富の拡大から得られる利益は、平等に分配されないかもしれません。貿易は、さまざまな要因によって制約されることがあります。例えば、戦争やテロ、自然災害、政府の規制や課税、独占企業による市場のコントロール、ストライキをはじめとする労働者の行動などが挙げられます。</p>

「地理」	
関連概念	定義
因果関係（原因／結果）	<p>「因果関係」とは、原因と結果との間の関係です。そして、この関係には、内部要因と外部要因が影響します。</p> <p>地理学者は、物理的現象であれ人的現象であれ、すべての地理的現象の背後にそれを取り巻く「原因」があり、それが「結果」を招くのだと理解します。その結果は、知られている場合と知られていない場合の両方があります。原因は、直接的な場合と間接的な場合があります。また内的な場合と外的な場合があります。地理学者は、因果関係を、地理的現象の確定した帰結点としてだけでなく、それらの点の間に起きる出来事や行動においても研究します。プレートテクトニクスの因果関係を例にすると、地理学者はプレートテクトニクスの原因と結果を分析するだけでなく、例えば災害管理やP波とS波の地震波など、プレートテクトニクスのサブテーマも分析します。地理学における因果関係は、本質的に「変化」の「重要概念」に関連していて、「個人と社会」の「重要概念」である幅広い「時間、場所、空間」に存在する可能性があります。</p>
文化	<p>「文化」は、文明と個人を形づくり、定義し、誘導する役割を担います。また、文明や個人と環境との間の関係に影響します。文化は、集団が共有する学習した行動と価値観により構成されており、社会化を通じて伝播します。地理学者は、場所に見られる文化的な特徴を、言語、慣習、信念、服装、イメージ、音楽、食、技術などの観点から研究します。文化の「関連概念」を探究する單元には、文化の伝播、文化の対立、消費主義の過程といった問題点を含むことができます。</p>
格差と公平	<p>「公平」は、公正や正義についての問題に関係します。「格差」とは、所与の資質、指標、または資源の不均衡な分配のことであり、公平の概念に反するものととらえることができます。地理学では、しばしば不公平な状況や事実を研究します。私たちを取り巻く世界には、機会の不平等や不均衡や差異があり、これらが格差を生むと認識するためです。もてる者ともたざる者との間の差は、何によって生じるのでしょうか。「もてる」と「もたざる」とは、何を意味するのでしょうか。格差はどのように理解されているのでしょうか。「関連概念」としての格差は、規模の程度を有すべきであり、また格差の主な要因である経済、機会、資源へのアクセス、選択、価値観、自由などを結びつけるべきです。不平等は、性別、民族、年齢、場所、国籍、収入など、多数の要因に基づいている可能性があります。</p>

「地理」	
関連概念	定義
多様性	人文地理的及び自然地理的な意味の両方において物事がどのような点または側面で異なるかを学習することは、地理学において非常に重要です。人文地理的世界と自然地理的世界のどちらにも差異は存在し、それが本質的に絡み合って、多様かつ固有な世界をつくっています。場所、環境、人は、多様です。「多様性」は、空間と時間を超えて研究することができます。物理的多様性または文化的多様性に焦点をあてることができます。
グローバル化	「関連概念」としての「グローバル化」は、私たちの世界が「小さくなりつつある」ことにより生じる地域、国、さらにはグローバルなレベルでの影響や期待を含意します。一部の地理学者は、グローバル化を、時間と場所が取れんしていく過程、さらには人々や国々の中の相互依存が増していく過程と特徴づけています。グローバル経済の文化的、政治的、経済的な絡み合いは、否定することのできないトレンドであり、技術や通信システムの急速な発達によってますます増幅しています。グローバル化は、人々や自然環境にとってポジティブでありながら同時にネガティブでもあり得ます。これは、結果として起こる変化の範囲や分析者のものの見方によって異なります。概念としてのグローバル化は、一部の学者によって疑問視されていて、「西洋化 (westernization)」、「グローカル化 (glocalization)」、「世界連邦化 (mundialization)」の過程であるとする説明を好む者もいます。
管理と関与	「管理」とは、望ましい結果を達成するための、自然と人間の両方の文脈における人間の介入と定義することができます。MYPの「地理」では、資源の質と量を管理するという課題に人類がどのように対応しているかを考察し、さらに管理のもたらす結果を考察すべきです。私たちはしばしば、管理と関与を、岩石圏（土地や廃棄物の管理）、水圏（海岸線や水の管理）、生物圏（保護、動植物と農業の管理）、大気圏（清浄な空気の管理）といった固有の構成要素の保護方法を発見することにより問題を解決する方法ととらえます。管理は、政治地理学の「関連概念」として組み込むことができます。より良い選択を可能にするための、法や教育を通じた統治と見ることができるためです。意思決定と管理は、さまざまな関係者が有する力のバランスによって異なってきます（「力・権力」の「関連概念」を参照）。

「地理」	
関連概念	定義
ネットワーク	<p>「ネットワーク」とは、相互につながったグループやシステムです。通常は互いに依存し合うノードや部分で構成されていて、1つのノードや部分に変化すれば、たいていは他にも影響が及びます。このネットワークの個々の部分は、通常、測定可能な段階的な階層の中に存在しています。地理学において、ネットワークの概念は、多岐にわたる規模と複雑さの中で探究することができます。ネットワークは、国立公園に生息する草食動物のグループから、アマゾン流域のすべての湖、帯水層、河川や小川まで、さまざまなものを指すことができます。また、中心と周辺の間にも相互作用をもつ世界のシステムというレベルで探究することもできます。地理学者は、研究するほとんどのプロセスを、隔離された現象ではなく、より大きなネットワークの相互に絡み合った断片として理解します。ネットワークは、本質的に「体系」の「重要概念」に関係していて、もうひとつの「重要概念」である幅広い「時間、場所、空間」に存在しています。</p>
パターンとトレンド	<p>「パターン」とは、研究対象領域（空間または場所）において起きている何かしらの規則的な状況を指し、また「トレンド」とは、時間をかけて起きている何かしらの規則的な状況を指します。パターンとトレンドは、地域から国、領域、グローバルまで、さまざまなレベルまたはさまざまな規模で分析することにより確定することができます。また、パターンとトレンドは、人間と自然の両方の文脈における地理的なプロセスを予測・予期するのに役立つ重要なツールとして使うこともできます。地理学におけるパターンとトレンドは、本質的に「体系」の「重要概念」に関係していて、もうひとつの「重要概念」である幅広い「時間、場所、空間」に存在しています。</p>

「地理」	
関連概念	定義
力・権力	<p>個人や集団の「力」や「権力」は、何かを起こす能力と定義することができます。</p> <p>地理学では、力のバランスを、物理的なプロセスの観点から考察することができます。例えば、侵食の力に対する堆積の力などです。力のバランスは、人間の開発と相互作用という観点からも重要です。政府、多国籍企業、複数レベルにわたる行政組織、市民の社会的組織と、個々のコミュニティと市民の権利との間の相対的な力などです。MYPの「地理」では、人間と環境がお互いに、またそれぞれの内部でどのように絡み合っているのかという問題の理解を目指すだけでなく、力や権力がそれらの関係をどのように支えているかについての理解も目指すべきです。</p> <p>力と権力の概念は、性別グループなどさまざまな集団の公平性や権利の問題に加え、資源をめぐる競争における先住民の権利の問題などを提起します。地理学における競争とは、対立する利害の間の葛藤です。資源（土地、食糧、材木、水、石油、その他のエネルギー源）をめぐる競争は、現代地理学の学習の根幹をなすものであり、資源に対する権利、資源をコントロールする力や権力についての問題を提起しています。</p>
過程	<p>「過程」とは、特定の結果や結論に到達するための、物理的、人的、文化的世界における把握された動きを意味し、地理学では段階的な変化を意味します。これは、期待される結果を伴うこともあれば、意図しない結果を伴うこともあります。「関連概念」としての「過程」は、地理学のあらゆる領域に広く適用されます。地理学者にとって特に重要な過程は、開発の過程です。開発の定義は議論が分かれるところですが（特にその指標を読む際）、対象人口の生活水準を引き上げることが可能な社会的、経済的、政治的な過程と理解することができます。</p>
規模	<p>「規模」は、地図上の特定の距離と地表上の特定の距離との間の比例的な関係を意味します。「関連概念」としての「規模」では、科目独自の内容に適用される地域、領域、国、国際、およびグローバルな枠組みに注目します。この「関連概念」を使用することにより、課題や問題、考え方がこれらの規模のいずれかにおいて、あるいはこれらの規模の相互関係において分析できることが強調されます。規模は本来の場所で見いだされるだけでなく、相互に影響を及ぼすということを認識すべきです。</p>

「地理」	
関連概念	定義
持続可能性	<p>「持続可能性」の概念は、私たちが有する財産の範囲内で生活するという考え方を示唆するものであり、環境システムと社会の間の相互作用の性質を理解するうえで欠かすことができません。自然な再生を可能にする速度で世界の資源を使用し、環境破壊を最小限に抑えること、と定義することもできます（I B資料（英語版）D P『<i>Environmental systems and societies guide</i>（「環境システムと社会」指導の手引き）』（2008年1月刊）。</p> <p>地理学における資源（物理的、人的、文化的）の使用とは、資源の消耗や破壊（一時的および恒久的）とその環境収容力に関する多くのトピックの基礎となります。「環境収容力」、「エコロジカル・フットプリント」、「自然資本」といった概念は、「持続可能性」の「関連概念」に織り込まれています。</p> <p>I B資料（英語版）D P『<i>Environmental systems and societies guide</i>（「環境システムと社会」指導の手引き）』（2008年1月刊）では、以下のように定義しています。</p> <p>「環境収容力」は、「所与の環境で持続的に支えることのできる種または『負荷』の最大数」と定義することができます。</p> <p>「エコロジカル・フットプリント」は、「一定の人口を所与の生活水準で支えるのに必要とされる土地の面積または水」と定義することができます。</p> <p>「自然資本」は、「適切に管理されれば物品とサービスの『自然所得』を生むことのできる自然資源を意味する際に、経済学者によって時折使用される用語」と定義することができます。</p>

「歴史」	
関連概念	定義
因果関係（原因／結果）	<p>「因果関係」とは、原因と結果との間の関係です。そして、この関係には、内部要因と外部要因が影響します。</p> <p>歴史学における「原因」とは、行動、出来事、現象、状況を招く何かです。「結果」とは、行動、現象、状況の結末または効果です。原因と結果はしばしば、特定の出来事、現象、期間、特に「短期」と「長期」に関係して、併せて考察されます。「多重的因果関係」の問題も、史料編修においては重要です。</p>
文明	<p>「文明」とは、一般的に大規模かつ複雑で、一定レベルの都市化と文化的発展を遂げた社会機構の形式を描写するのに使われる概念です。社会が文明と見なされるには、通常、一連の変化の過程を経て、社会的発展と社会の構造化が起きなければなりません。文明の概念はもともと、社会機構のより高いレベルの進歩や発展に関連づけられていましたが、この見解は明らかな価値判断を含んでいないとして、一部の歴史学者から疑問視されています。</p>
対立	<p>「対立」は、力の分配の不平等から発展する可能性があり、さまざまな形となって現れます。例えば、長引く意見の相違や言い争い、長期にわたる武力紛争、対立する感情やニーズのぶつかり合い、2つ以上の意見、原則、利害の深刻な不一致などです。歴史学者は、一定期間にわたって、また場所や空間を超えて生じる個人と社会との間の対立を研究し、また対立がどのように継続の源や変化の媒介になるのかも考察します。</p>
協調	<p>「協調」とは、個人や社会が同じ目的に向かって一緒に取り組む行動やプロセスです。歴史学者は、社会、個人、環境との間の協調を考察することで、歴史的な出来事またはプロセスを定義したり引き起こしたりするポジティブ、ネガティブ、短期的、長期的な要因を見極めようとします。協調は、変化や継続の媒介になることがあります。行動者の間の協調は、一定レベルの責任を示唆します。</p>
文化	<p>「文化」とは、歴史を通じて人間のコミュニティーに存在してきたさまざまな固有の体験、行動、慣習、および「知るための方法」を意味します。文化は通常、世代を超えて伝えられ、その世界の人々のものの見方や行動に影響します。文化は、動的なこともあれば静的なこともあります。歴史学者はしばしば、歴史上の出来事やプロセス、および発展の時間、場所、空間の関係性から、文化を考察します。歴史学者はしばしば、文化の変化を考察することによって、過去と現在を比較しようとします。文化はシステムです。</p>

「歴史」	
関連概念	定義
統治	<p>「統治」とは、所与の組織内の権限を規制するメカニズムとプロセスを指します。これは国家組織と非国家組織の両方に適用できます。これまでの歴史を通じて、人類は、コミュニティーや個人のニーズを満たすために政府を組織化してきました。集団が、多数の形式や機能を有する組織とプロセスをつくってきました。君主、共和国、部族、議会、大統領、独裁者、その他の統制のパターンは、さまざまな人間の価値観を表現し、また歴史と文化の多岐にわたる理解を反映しています。統治の中核を成しているのは、資源の分配、法律の制定、個人とコミュニティーとの間における、それらが存在する社会での力や権力のバランスについての問いかけです。民主的な政府は、政府を選んだ人々に対して説明責任を負います。</p>
アイデンティティー	<p>「アイデンティティー」とは、私たちが誰であるか、私たちがどのようなものの見方を有しているか、また個人として、コミュニティーとして、社会として、文化として私たちがどのように行動するかを定義し、形づくり、その基本となる情報を提供する価値観と信念と経験の組み合わせです。アイデンティティーは、歴史的なプロセスと解釈を形づくります。アイデンティティーは、外的な影響と内的な影響によって形成され、相関性を有するものです（「彼ら」に対する「私たち」の観念）。この概念は、個人と集団の両方が自己に対する見方をどのように形成し、進化させ、表現するかを意味します。歴史的な観点において、アイデンティティーは、出来事や考えやプロセスの原因または結果として考察することができます。さらに、市民権という観念は、政治的・歴史的に関連性の高いアイデンティティーの形式として人々の間に生じます。</p>
イデオロギー	<p>「イデオロギー」は、考えや理想をまとめた体系です。政治理論や経済理論、政策や行動の基礎を形づくることがあります。イデオロギーには通常、世界を解釈する際に、または世界をどのように構成すべきかについての規範的な主張を形成する際に使われる前提と主張を体系的に整理したものを含みます。イデオロギーは、人々の集団や社会のニーズを満たすため、時間をかけて進化・変化していくことがあります。また、人々の集団や社会が所在する場所と空間に由来することもあります。イデオロギーは政治的、経済的、社会的なシステムに発展し、これらのシステムがさまざまな方法で人間に影響を及ぼす可能性があります。例えば、一定の権利や責任の定義を通して、これが起きることがあります。</p>

「歴史」	
関連概念	定義
革新と革命	<p>「革新」とは、変化と発明を導くプロセスの理解を統合したものです。</p> <p>歴史学においては、既存の考え、出来事、動き、製品、または解決法を、改変、変容、再整理、再構成、組み替え、および刷新するなどして、新しい考え、出来事、動き、製品、または解決法を生み出すプロセスを、この概念を通して考察します。革新には、個人と社会の関与が必要です。なぜなら、個人や社会は、そのもてる能力を活用して、結果を導く可能性のある能力を開発、工夫、伝授するからです。そしてその結果は、短期的・長期的にみて、ポジティブな場合とネガティブな場合があります。</p>
相互依存	<p>「相互依存」とは、複数の個人、集団、社会がお互いに依存し合っている状態です。この相互的な依存関係はしばしば、個人、集団、社会の成長や発展、変化や進歩のニーズによって生じます。相互依存は、ポジティブとネガティブの両方を含むさまざまな結果を導く可能性があります。その結果は、相互依存関係にあるすべての者にとって同じこともあれば、異なることもあります。また、その結果は、個人、集団、社会が存在する時代や場所によって変わることもあります。相互依存の関係は、必ずしも対等の立場の者同士で築かれるわけではありません。史料編修においては、人々と国家との間の依存、支配、力や権力のプロセスを考察することもできます。</p>
ものの見方	<p>「ものの見方」は、やや異なる性質の概念です。学習分野の技術的な部分に、より明確に関係しているためです。ものの見方とは、誰かが何かを見る方法です。その対象物に関して過去に起こったすべてのことと、その対象物と観察者との間の過去の関係をすべて考慮したうえで、その見方が形成されます。歴史学者にとって、ものの見方は、出来事のさまざまな側面を理解する必要性を示唆するものです。</p>
重要性	<p>「重要性」は、やや異なる性質の概念です。学習分野の技術的な部分に、より明確に関係しているためです。歴史的な文脈を考慮したうえで大きな価値がある性質を意味します。歴史的な文脈とは、特定の考えや出来事を取り巻く政治的、社会的、文化的、経済的な状況を指します。歴史学の観点から何かをよく理解するには、その文脈を考察しなければなりません。つまり、その時間と空間において、それを取り巻いていたもの、それに対して意味や価値をもたらすものを考察するのです。こうすることにより、私たちはとりわけ、ある出来事や考えを他の出来事や考えと比較したうえで、それがどれだけユニークか、またはどれだけ平凡かといった感性を養うことができます。</p>

「個人と社会」の用語解説

用語	定義
行動計画	生徒が調査を完了するために定めるステップと情報。この計画には、サブクエスチョンの特定、調査で使用する方法の明確化、情報源の明確化、それらの情報を要約するための調査の主な段階の計画など、複数の段階が含まれる可能性があります。このプロセスには柔軟性があります。生徒は、調査中に発見があればその発見により計画を変更することができます。
参考文献	課題を遂行するために使用した重要な情報源のリスト
例証する	事例を使って表現すること
モジュール	「個人と社会」のコースに含まれている各部。これを組み合わせることにより、1学年のコースが完成します。「個人と社会」のコースは、複数のモジュールによって構成されます。各モジュールには、1つまたは複数の単元を含むことができます。
認識する	パターンや特徴を通して特定すること
振り返る	深く思考し、考察すること
研究方法	特定のトピックに関する情報を探すために必要となる一連の体系的なステップ。情報を収集するための研究方法は、学習する「個人と社会」の学習分野によって異なります。研究方法には、情報源（タイプと範囲）の選定、アンケート、調査票、聞き取り調査、観察、実験、測定、定量的データの収集と分析、サブクエスチョンの設定などが含まれます。
研究課題	調査の方法論的な出発点。研究の範囲と性質を導くガイド役となります。明確かつ的の絞られた研究課題のためには、関連性、妥当性、独創性、評価への適性、リソースの利用可能性、生徒の興味のレベル、学習分野や教科とのつながりといった要素を考慮する必要があります。研究課題は、一般的な文言として、あるいは具体的な探究の道筋として定義することができます。

MYPの「個人と社会」の指示用語

指示用語	定義
分析しなさい Analyse	本質的な要素または構造を明らかにするために分解しなさい（部分と関係性を特定し、情報を解釈して、結論を導きなさい）。
論証しなさい Demonstrate	推論や証拠によって明確にし、事例や実践的な応用例を示しなさい。
詳しく述べなさい Describe	ある状況、出来事、パターン、またはプロセスの詳細な説明や描写を提示しなさい。
論じなさい Discuss	さまざまな議論、要因、仮説を含めた、熟考したバランスのよい見解を提示しなさい。意見または結論は、適切な証拠を挙げて、はっきりと述べなさい。
記録しなさい Document	広く認知された引用体系に則って引用（または言及）することにより、使用した情報源を示しなさい。引用は本文に含め、かつ巻末につける引用文献リストまたは引用文献目録にも含めるべきです。
評価しなさい Evaluate	長所と短所を比較し、査定しなさい。
説明しなさい Explain	理由や要因などを詳しく述べなさい（「正当化しなさい (Justify)」を参照のこと）。
探究しなさい Explore	何かを発見するための系統立ったプロセスに取り組みなさい。
定式化しなさい Formulate	関連する概念や議論を正確かつ体系的に表現しなさい。
特定しなさい Identify	数ある可能性の中から答えを確定しなさい。特色のある事実や特徴を認識し、簡潔に述べなさい。
解釈しなさい Interpret	与えられた情報から傾向をつかんで結論を導き出すため、知識および理解を活用しなさい。
調べなさい Investigate	事実を確定し新しい結論に到達するために、詳細かつ体系的な実験を観察し、研究し、実施しなさい。
正当化しなさい Justify	答えや結論を裏づける有効な理由や証拠を提示しなさい（「説明しなさい (Explain)」を参照のこと）。

指示用語	定義
列挙しなさい List	説明をつけ加えずに、簡潔な答えを並べなさい。
要約しなさい Summarize	全般的なテーマまたは主要点を抜粋しなさい。
統合しなさい Synthesize	新しい理解を生むために、さまざまな考え方を組み合わせなさい。
活用しなさい Use	知識や規則を用いて、理論を実践しなさい。

スクリーン上での「個人と社会」の試験では、IB資料「MY P：原則から実践へ」に記載されているMY Pのすべての指示用語が使用されます。

参考図書

- Clifford, N, Holloway, S, Rice, S and Valentine, G, (eds). 2009. *Key Concepts in Geography*. (Second Edition). London, UK. SAGE Publications Ltd.
- Donovan, MS and Bransford, JD, (eds). 2005. *How Students Learn: History, Mathematics, and Science in the Classroom*. (Authoring organizations: Committee on How People Learn: A Targeted Report for Teachers; Center for Studies on Behavior and Development; National Research Council). Washington DC, USA. The National Academies Press.
- Geographical Association. 2010. *Curriculum Making with Geography: A Professional Glossary*. <http://www.geography.org.uk/cpdevents/curriculummaking/glossary/> (accessed 10 June 2013).
- Geographical Association. 2009. *A Different View: A Manifesto from the Geographical Association*. <http://www.geography.org.uk/adifferentview> (accessed 18 May 2011).
- Giddens, A. 1984. *The Constitution of Society: Outline of the Theory of Structuration*. Cambridge, UK. Polity Press.
- Lambert, D and Morgan, J. 2010. *Teaching Geography 11–18: A Conceptual Approach*. Maidenhead, UK. Open University Press.
- Mazlish, B. 2006. *The New Global History*. New York, New York, USA. Routledge.
- Morin, E. 1999. *Seven Complex Lessons in Education for the Future*. Paris, France. UNESCO.
- National Council for the Social Studies (NCSS). 2010. “Chapter 2—The Themes of Social Studies” in *National Curriculum Standards for Social Studies: A Framework for Teaching, Learning, and Assessment*. <http://www.socialstudies.org/standards/strands> (accessed 18 May 2011).
- Oxfam. 2006. *Education for Global Citizenship: A Guide for Schools*. <http://www.oxfam.org.uk/education/gc/> (accessed 18 May 2011).
- Programme de formation de l'école québécoise. 2007. *Domaine de l'univers social: Monde contemporain*. Québec, Canada. Ministère de l'Éducation, du Loisir et du Sport. <http://www.mels.gouv.qc.ca/sections/programmeformation/secondaire2/index.asp?page=social> (accessed 18 May 2011).
- Radford, C. 1966. “Knowledge—By Examples”. *Analysis*. Vol 27. Pp 1–11.
- Tosh, J. 2010. *The Pursuit of History: Aims, Methods and New Directions in the Study of Modern History*. (Fifth Edition). Harlow, UK. Pearson Education Limited.
- Wineburg, S. 2001. *Historical Thinking and Other Unnatural Acts: Charting the Future of Teaching the Past*. Philadelphia, Pennsylvania, USA. Temple University Press.